年報 2021

令和3年度

医療法人 腎愛会

上山病院

うえやま腎クリニック

高齢者福祉複合施設 光陽

2021年度版 年報の発行にあたって

日頃より医療法人腎愛会の運営にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

1981（昭和 56）年 1 月､この宇宿の地に「上山内科クリニック」を開設、おかげさまで開業 42 年目を迎えました。ここまで来られましたのも、ひとえに患者の皆様及びご家族の皆様、職員の皆様、地域の皆様のお力添えのたまものと感謝いたしております。

2021（令和 3）年度は、新型コロナウイルス感染拡大がやまず、増減を繰り返しながら新規感染者数の最多更新が続く状況となっています。

このような厳しい状況下においても「透析医療を守る」という共通目的のもと、行動制限などの感染対策に患者様、職員一人ひとりが真摯に協力してくださったおかげで、感染を最小限でくい止めることができており、本当に有難いことだと感じます。

世界規模で接種が始まったコロナワクチンに一筋の希望を見出したのも束の間、2022 年 3 月にロシアがウクライナに軍事侵攻を開始しました。学校や医療機関までもがミサイルの標的となるなど、多くの民間人が命を落とす残酷な状況は他人事と思えず、強い悲しみと怒りを感じずにはいられません。

2022（令和 4）年度に入ると、この戦争の影響は医療材料や資材の価格高騰という形で医療にも影響を及ぼし、4 月の診療報酬マイナス改定に加え、記録的な円安という経済環境も相まって、より効率的かつスリムな病院運営に舵を切らねばならない状況となりました。

ロシアのウクライナ侵攻、第八波に突入したコロナ感染症、先の見えない不穏な状況がしばらく続きそうですが、一日も早く平和な日々を取り戻したいものです。

その願いを胸に、皆様の「地域のかかりつけ医」として、「いつまでも自分らしく生きる」という真のQOL（Quality of life）実現のため、腎愛会に集う素晴らしい職員と共に地域の皆様のサポートに努めて参ります。

今後とも一層のご支援・ご厚誼を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2022（令和 4）年 11 月

医療法人腎愛会　理事長

上山 達典

ごあいさつ

今年も皆様のご指導、ご協力のお陰で 1 年間無事に務めることができました。心より御礼申し上げます。

2019 年 12 月に中国武漢で始まった COVID-19 感染症は、2022 年 8 月には、鹿児島でも連日 4000 人を超える感染者数となりました。当院かかりつけの患者様やスタッフにも感染者がみられ、残念ながらクラスターも発生しました。また、刻々と変化する COVID-19 感染症に対する対応基準に対して、スタッフ一同常に連携を取りつつ対応することで何とか乗り切ることができたのは大変ありがたいことでした。3 年経過した今でもストレスのかかる毎日が続いていますが、with コロナの生活に少しずつ慣れていかねばならないと考えています。その他、ロシアのウクライナ侵攻や円安による物価上昇など思いもよらない出来事が次から次へと起こり、さらに今後は働き方改革が医療の世界にも施行される予定です。これからどのように変化していくのか想像もつきませんが、我々のできることを精一杯、最善を尽くしていきたいと思います。

腎愛会は引き続き、当院にかかる患者の皆様はもちろん、地域の皆様のお役に立てるように、これまで取り組んできた組織づくりをもとに、スタッフ皆で一致団結し腎愛会の目標に向かって成長していきたいと思います。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

『日本で最高の病院にしていこう！』

①来られる患者様、そのご家族様が「素晴らしい治療をしてもらえて、本当によかった」と心から言っていただける病院

②スタッフが「私は素晴らしい病院で働いている」と実感できる病院

③他の病院や医師から「あの病院は最高の医療を提供している」と認めてもらえる病院

2022（令和 4）年 11 月

上山病院　院長

寺口 記代

上山病院

〒890-0073
鹿児島県鹿児島市宇宿3丁目17-6

TEL 099-257-2277
FAX 099-252-0722

うえやま腎クリニック

〒890-0073
鹿児島県鹿児島市宇宿4丁目39-20

TEL 099-275-3211
FAX 099-275-3212

高齢者福祉複合施設「光陽」

〒890-0073
鹿児島県鹿児島市宇宿3丁目22-10

TEL 099-257-5455
FAX 099-257-5445

グループ本部

〒890-0073
鹿児島県鹿児島市宇宿3丁目21-5

TEL 099-259-8811
FAX 099-259-8469

目　次

2021 年度版 年報の発行にあたって
ごあいさつ
グループ所在地
1　理念・基本方針、シンボルマークの由来 …… 01
2　患者様の権利について …… 02
3　概要 …… 03
　上山病院
　うえやま腎クリニック
　高齢者福祉複合施設 光陽
4　沿革 …… 05
5　1 年間の主な出来事 …… 06
6　組織図 …… 07
7　医療機器 …… 08
8　研究実績 …… 09
9　院内研修開催実績 …… 10
10　委員会活動 …… 11
11　職員データ …… 12

上山病院

1　各部門の紹介・実績報告 …… 15
2　統計 …… 34

うえやま腎クリニック

1　各部門の紹介・実績報告 …… 43
2　統計 …… 47

高齢者福祉複合施設 光陽

1　部門の紹介・実績報告 …… 53

グループ本部

1　各部門の紹介・実績報告 …… 55

1 理念・基本方針、シンボルマークの由来

理念・基本方針

■理念

私たちは、豊かな人間愛を持って、常に最良の医療を求めて最善を尽くします。

■基本方針

1) 質の高い医療を追及するために、たゆみなく研鑽します。
2) 医療人としての誇りを自覚し、公共のために行動します。
3) 温かい医療を提供するとともに、地域のために貢献します。

■行動規範

四維（礼・義・廉・恥）

礼　礼を重んじ、感謝の気持ちを持ちます。

義　正しい道を求め、公共のために行動します。

廉　心を清らかに保ち、素直に接します。

恥　恥じることを知り、同じ過ちを繰り返さないよう創意します。

シンボルマークの由来

赤色 は、医療への情熱を
青色 は、患者様への希望を
外側 は、医療へ対する無限の奉仕と腎愛会の伸びゆく姿を
内側 は、患者様へのホスピタリティを表しています。

2 患者様の権利について

■患者の皆様の権利と責務

Ⅰ 患者の皆様には次のような権利があります。

1 等しく安全で良質な医療を受ける権利があります。
2 治療方針・治療効果・危険性などについて知ることができます。
3 治療方針について、別の医師の意見を希望することができます。
4 診療内容などの個人情報は保護されます。
5 医療費の詳細について、説明を受けることができます。

Ⅱ 患者の皆様には次のような責務があります。

1 最善の医療を受けるために、病状経過・過去の治療歴などについて情報提供をしていただく責任があります。
2 病を克服するために、医療関係者と協働して治療に取り組む必要があります。
3 円満な医療を受けるために、病院や社会生活上のルールやマナーを守る必要があります。
4 診療上必要な医療費を負担する必要があります。

■説明と同意

医学・医療は科学技術の発展に伴って急速に進歩し、診断・治療の中身が専門的になり、理解が難しくなっています。また、高齢者が多くなり、慢性疾患が増加し、疾病構造も大きく変わっています。

そこで、患者様やご家族様におかれましては、十分な説明を受け、よく理解してから、自分の人生観に従って、主体的に生きていこうとお考えになろうかと拝察いたします。

私ども医療従事者は、このような患者様のよりよい支援者として努めてまいりますので、ご不審な点がございましたらご遠慮なくお尋ねください。

そして、十分に理解し同意して、診療にご協力をお願いいたします。

3 概 要

【上山病院】

1）名　称　　：医療法人 腎愛会 上山病院
2）所在地　　：鹿児島県鹿児島市宇宿三丁目 17-6
3）開設者　　：上山達典
4）開設年月日　：平成 21 年 7 月 1 日
5）管理者　　：寺口記代
6）診療科目：内科、腎臓内科、人工透析内科、
　　循環器内科、血管外科
7）延床面積：3450.48 ㎡
8）病床数　　：40 床（療養病床 40 床）
9）施設基準等

①基本診療

療養病棟入院基本料 1
在宅復帰機能強化加算
療養病棟療養環境加算 1
入院時食事療養（Ⅰ）／生活療養（Ⅰ）
入退院支援加算 2

②特掲診療

薬剤管理指導料
ニコチン依存症管理料
医療機器安全管理料 1
透析液水質確保加算 2
慢性維持透析濾過加算
感染防止対策加算 2
患者サポート体制充実加算
CT 撮影及び MRI 撮影
糖尿病合併症管理料
運動器リハビリテーション料Ⅲ
外来リハビリテーション診療料
下肢抹消動脈疾患指導管理加算
人工腎臓
導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
在宅血液透析指導管理料
腎代替療養指導管理料
診療録管理体制加算 2
データ提出加算 1 及び 3

③医療機関の指定

保険医療機関指定
特定疾患治療研究事業委託医療機関
障害者自立支援法指定医療機関（更生医療）
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
労災二次健診指定医療機関
結核指定医療機関
原爆被爆者一般疾病医療機関
原爆被爆者二世健康診断委託事業医療機関
特定健診医療機関
鹿児島市 CKD 予防ネットワーク腎臓診療医療機関
肝炎治療特別促進事業指定医療機関
日本透析医学会教育関連施設認定
鹿児島県女性にやさしい医療機関
65 歳以上インフルエンザ予防接種
65 歳以上肺炎球菌ワクチン予防接種
診療・検査医療機関

【うえやま腎クリニック】

1）名　称　：医療法人 腎愛会 うえやま腎クリニック
2）所在地　：鹿児島県鹿児島市宇宿四丁目 39-20
3）開設者　：上山達典
4）開設年月日 ：平成 18 年 5 月 30 日
5）管理者　：上山菜穂
6）診療科目：人工透析内科、形成外科
7）延床面積：1609.54 ㎡
8）施設基準等
①特掲診療
医療機器安全管理料 1
糖尿病合併症管理料
下肢抹消動脈疾患指導管理加算
人工腎臓
導入期加算 1
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
②医療機関の指定
保険医療機関指定
特定疾患治療研究事業委託医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
原爆被爆者一般疾病医療機関
65 歳以上インフルエンザ予防接種
65 歳以上肺炎球菌ワクチン予防接種
診療・検査医療機関

【高齢者福祉複合施設 光陽】

1）名　称　：医療法人 腎愛会
高齢者福祉複合施設 光陽
2）所在地　：鹿児島県鹿児島市宇宿三丁目 22-10
3）開設者　：上山達典
4）開設年月日 ：平成 29 年 1 月 17 日
5）管理者　：寺口記代
6）サービス内容：サービス付き高齢者向け住宅
ケアプランセンター
ヘルパーステーション
7）延床面積：1902.44 ㎡
8）施設概要
サービス付き高齢者向け住宅
1 人部屋（18.85 ㎡）　3 部屋
1 人部屋（26 ㎡）　23 部屋
2 人部屋（33.15 ㎡）　2 部屋
2 人部屋（44.85 ㎡）　2 部屋
食堂・談話室

4 沿革

1981 年　1 月 17 日	上山内科クリニックを開設 (職員数 13 名 、許可病床数 19 床)
1985 年　5 月 16 日	有限会社ユーエスケイ企画設立 (資本金 300 万円)
1985 年　6 月 14 日	職員寮 (上山ハイツ) 竣工
1987 年　3 月 31 日	上山内科クリニックを閉院
1987 年　4 月　1 日	上山病院を開設 (職員数 45 名 、許可病床数 48 床)
1987 年 10 月　1 日	医療法人腎愛会設立 (資本金 8,600 万円)
1990 年　8 月	Push/Pull-HDF(日機装社製) 導入
1992 年　4 月　1 日	じんあいクリニック開設 (外来透析専門施設 、無床)
1992 年 11 月	Push/Pull-HDF(上山式) を開発し導入
1994 年 10 月　3 日	ユーエスケイ企画を有限会社から株式会社に改組 (資本金 1,000 万円)
1995 年 12 月 25 日	上山病院の増改築を実施し 、2 床減床 (職員数 73 名 、許可病床 46 床)
1997 年　4 月　1 日	上山病院に泌尿器科を増科
1999 年 12 月 30 日	療養病床施設基準に対応するために上山病院を改築
2003 年　7 月 31 日	ユーエスケイ企画本社ビル竣工
2003 年　9 月　1 日	上山病院の病床を「 その他一般病床 」から「 療養病床 」へ転換
2004 年 10 月 19 日	ユーエスケイ企画本社ビル (現本部ビル)、第 8 回鹿児島市建築文化賞受賞
2005 年　9 月 30 日	職員寮 (上山ハイツ) 売却
2006 年　5 月 30 日	うえやま腎クリニック開設 (外来透析専門施設 、無床)
2006 年　7 月　1 日	ユーエスケイ企画宇宿事業所 (現ユーエスケイ企画本社) 開設
2008 年　3 月 31 日	じんあいクリニック閉院
2009 年　7 月　1 日	新上山病院へ移転 (職員数 124 名 、許可病床数 40 床)
2009 年 10 月　1 日	上山病院 循環器内科を増科
2011 年　1 月 17 日	開院記念 30 周年
2012 年　1 月　6 日	病院機能評価 (Ver.6.0) 認定 ((財) 日本医療機能評価機構)
2012 年　2 月　7 日	次世代育成支援対策推進法基準適合一般事業主認定 (厚生労働大臣)
2013 年　3 月 15 日	上山病院 日本透析医学会教育関連施設認定
2013 年 11 月　7 日	上山病院 女性にやさしい医療機関指定
2014 年 10 月　1 日	オーダリングシステム導入
2015 年　4 月　4 日	福利厚生施設 霧島山荘竣工 (改築)
2015 年 12 月 25 日	上山病院 血管外科を増科
2016 年 11 月　1 日	ケアプランセンター 光陽 開設
2016 年 12 月 26 日	高齢者福祉複合施設 光陽 竣工
2017 年　1 月 11 日	デイサービス 光陽 開設
2017 年　1 月 17 日	サービス付き高齢者向け住宅 光陽 入居開始
2017 年　1 月 22 日	訪問看護ステーション 光陽 開設
2017 年　6 月 13 日	うえやま腎クリニックにビューティーコアサポート外来を開設
2018 年　6 月　1 日	上山病院 在宅透析センター 設置
2018 年　6 月　1 日	うえやま腎クリニック 形成外科を増科
2018 年　6 月　1 日	上山病院 訪問リハビリテーション 開始
2019 年 12 月　1 日	電子カルテ導入
2020 年　8 月　3 日	ビューティーコアサポート外来をビューティー・コア・サポートに名称変更
2020 年 12 月 31 日	デイサービス 光陽 休止
2020 年 12 月 31 日	訪問看護ステーション 光陽 休止
2021 年　1 月　1 日	高齢者福祉複合施設　光陽 ヘルパーステーション 開設

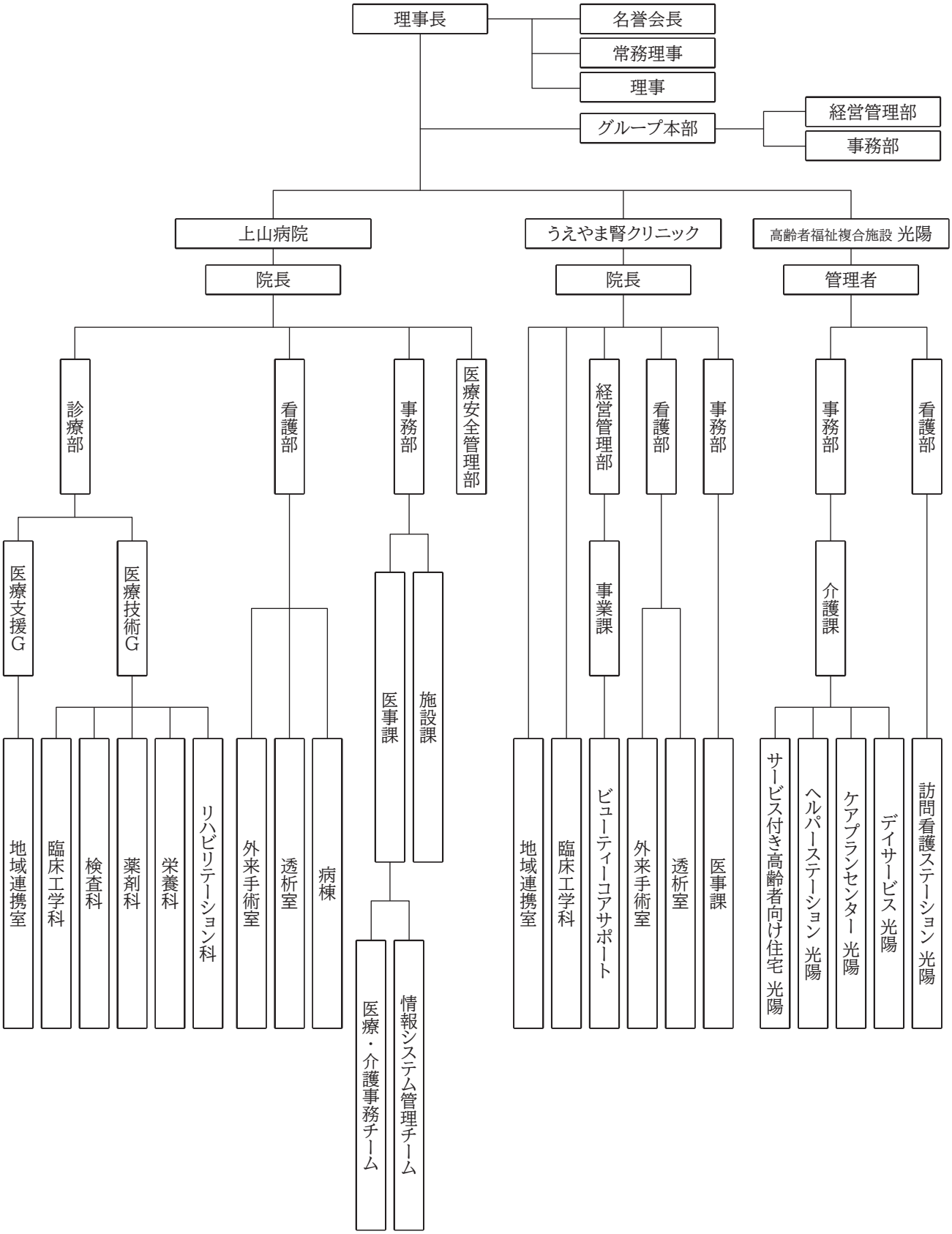
5　1年間の主な出来事

4月1日	開院記念式
	永年勤続表彰

4月8～9日	新入職者研修

6月18～20日	第64回 日本腎臓学会（ハイブリッド開催）
6月4～6日	第66回 日本透析医学会学術集会・総会（ハイブリッド開催）
9月1日	日本透析医会災害時情報伝達訓練
10月14～15日	第29回 日本慢性期医療学会（ハイブリッド開催）
10月26日	鹿児島県透析医会学術講演会（WEB開催）
12月29日	仕事納め
1月4日	年始式

6 組織図


理事長
名誉会長
常務理事
理事
グループ本部
経営管理部
事務部
上山病院
院長
診療部
医療支援G
医療技術G
地域連携室
臨床工学科
検査科
薬剤科
栄養科
リハビリテーション科
看護部
外来手術室
透析室
病棟
事務部
医事課
施設課
医療・介護事務チーム
情報システム管理チーム
医療安全管理部
うえやま腎クリニック
院長
地域連携室
臨床工学科
経営管理部
事業課
ビューティーコアサポート
看護部
外来手術室
透析室
事務部
医事課
高齢者福祉複合施設 光陽
管理者
事務部
介護課
サービス付き高齢者向け住宅 光陽
ヘルパーステーション 光陽
ケアプランセンター 光陽
デイサービス 光陽
看護部
訪問看護ステーション 光陽

7 医療機器

CT

透析用監視装置

超音波断層装置

【その他】

電気ﾒｽ
手術台
患者監視装置ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞﾓﾆﾀｰ
ｾﾝﾄﾗﾙﾓﾆﾀｰ
ﾊﾟﾙｽｵｷｼﾒｰﾀ
聴力計ｵｰｼﾞｵﾒｰﾀ
ﾏｲｸﾛｽﾓｰｶｰﾗｲｻﾞｰ
長時間用心電用ﾃﾞｰﾀｰﾃﾞｺｰﾀﾞ
顕微鏡
心電計
血圧脈波検査装置
超音波診断装置
（腹部・心臓・頚部・血管）
吸引機
自動血球計数測定装置
生化学自動分析装置
ｴﾝﾄﾞﾄｷｼﾝ測定装置
純水装置（ｵﾙｶﾞﾉﾋﾟｭｱﾗｲﾄ）
電解質分析装置
逆浸透水処理装置
多人数用透析液供給装置
多人数用透析監視装置
個人用透析装置
個人用逆浸透水処理装置
自動溶解装置
透析液ｸﾘｰﾝ化ﾕﾆｯﾄ
浸透圧分析装置
血圧監視装置
透析用監視装置
滅菌ﾊﾟｯｸｼｰﾗｰ
高圧蒸気滅菌器ｻｰﾎﾞｸﾚｰﾌﾞ
ｶﾞｽ滅菌器ｹｽﾐｸﾚｰﾌﾞ
超音波式ﾈﾌﾞﾗｲｻﾞｰ
除細動器
AED
錠剤自動供給装置
X 線一般撮影装置
X 線 CT 装置
DR 装置
電子ﾎﾟｹｯﾄ線量計
X 線ﾃﾚﾋﾞ装置
凝固測定用経過時間ﾀｲﾏｰ
外科用 C ｱｰﾑ

8 研究実績

(1) 発表

年月日	演題名	氏名	学会名	会場名
2021 年 4 月 15 日	光老化対策に取り組む日本の深刻な ビタミン D 欠乏の実際 又その悪影響に ついて	上山 菜穂	第 64 回日本形成外科 学会総会・学術集会	ホテル椿山荘東京

(2) 座長

年月日	演題名	氏名	学会名	会場名
2021 年 5 月 19 日	重症下肢虚血と闘う！	寺口 記代	循環器トータルケア WEB カンファレンス	天文館ビジョンホール ・WEB 配信
2021 年 5 月 20 日	腎性貧血治療の最新の話題	上山 達典 （世話人）	第 10 回 腎とミネラル代謝研究会	TKP ガーデンシティ 鹿児島中央
	腎臓リハビリテーション：その効果と 最近の話題			
2021 年 6 月 16 日	高齢者 CKD の治療	寺師 守彦	透析病院薬剤師セミナー	天文館ビジョンホール ・WEB 配信
2021 年 6 月 29 日	CKD 診療におけるカリウム代謝異常を どう診るか？	上山 達典	CKD 診療 オンラインセミナー ～電解質管理を考える～	・WEB 配信
2021 年 12 月 16 日	腎臓専門医が考える ARNI の役割	上山 達典	エンレスト×腎臓 WEB セミナー	城山ホテル鹿児島 ・WEB 配信
2021 年 12 月 23 日	CKD 医療連携の課題 ～腎臓診療医の取り組みについて～	上山 達典	鹿児島市 CKD 予防ネットワーク研修会	TKP ガーデンシティ 鹿児島中央 ・WEB 配信
	慢性腎臓病に対するマルチレイヤー アプローチ～ SGLT2 阻害薬の意義～			
2022 年 1 月 19 日	ミニシンポジウム	嘉川 亜希子	日本性差医学・医療学会 第 15 回学術集会	佐賀大学
2022 年 2 月 22 日	フレイルを考慮した糖尿病の治療戦略	上山 達典 （世話人）	第 10 回 糖尿病と血管障害研究会	城山ホテル鹿児島 ・WEB 配信
	併存症を考えた高齢者糖尿病治療			
2022 年 3 月　3 日	CKD 患者の高カリウム血症を再考する	上山 達典	Nephrology Seminar in 鹿児島	・WEB 配信

(3) 院内講演会　　中止

(4) 講師

年月日	演題名	氏名	主催	会場名
2021 年 6 月 16 日	HIF-PH 阻害薬の特徴	永松 翔	バイエル薬品株式会社	天文館ビジョンホール ・WEB 配信
2021 年 6 月 12 日	循環器領域における性差医療	嘉川 亜希子	福島県立医大臨床講義	福島県立医科大学
2021 年 8 月 22 日	エイジレス・ボディ作りの 知られざる極意	上山 菜穂	オーソモレキュラー アカデミー	オンライン

(5) 院内発表会　　中止

9 院内研修開催実績

(1) 法定研修

年月日	テーマ	講 師	主 催	参加人数
2021年 8月31日	コロナワクチン副作用の集計	上山病院　薬剤科　東	医療安全委員会	172名
	ヒューマンエラーについて	上山病院　透析室　徳留		
	感染経路別予防策 ～コロナに負けない感染予防～	上山病院　臨床工学科　豊	感染対策委員会	
2022年 3月　1日	放射線部門で起きたアクシデント事例	上山病院　検査科　大塚	医療安全委員会	164名
	医薬品の安全使用	上山病院　薬剤科　寺師		
	医療安全情報配信	うえやま腎クリニック　看護部　板敷		
	オミクロンとワクチンの効果について	上山病院　検査科　立和名	感染対策委員会	

(2) その他の研修

年月日	内 容	発表者	参加人数
2021年 4月15日	体験からの学び	山田・十島・蒲地・川道・上田	43名

10 委員会活動

名称	内　訳	開催頻度	人数	委員会の活動内容
医療安全管理委員会		年２回	７名	医療安全管理のための統括調整機能を果たす委員会。 医療安全管理のための組織に包括される各委員会の代表者と 医療安全管理者から構成される。
第1委員会	医療安全	月１回	32名	ヒヤリハット報告書の収集分析等を通して、医療事故の防止、 安全かつ適切な医療の供給体制の確立を目的として活動する。
	医療事故		32名	医療事故・医事紛争の予防対策の検討や医療事故発生時の 原因究明･改善策の提案など、医事紛争を解決するための活動を行う。
	倫　理	隔月１回	９名	倫理的諸問題を解決するための活動を行う。
第2委員会	感染対策	月１回	37名	院内感染の予防対策や知識の啓蒙を図り、感染の発生防止体制の 確立を目的として活動する。
	輸血療法			血液製剤の安全供給かつ適切な使用の実践が行われるための活動を 行う。
第3委員会	安全衛生管理	月１回	28名	職場の安全管理や職員の衛生管理を行う。
	医療ガス			医療用ガス及びその供給設備についての安全管理を行う。
第4委員会	褥瘡対策	月１回	29名	入院患者様の褥瘡発生を防止し、発生した場合に適切な治療を 行うための活動を行う。
	給　食			給食業務に関する連絡調整を行うと同時に、おいしい食事提供の ために検食を行い、栄養士に意見を伝え、改善に努める。
第5委員会	薬事委員会	月１回	11名	医薬品の適正使用及び管理や新規医薬品の採用の決定を行う。
第6委員会	透析機器 安全管理	月１回	13名	透析液の水質管理を行い、安全な透析を行うための活動を行う。
第7委員会	教　育	月１回	29名	職員に対する院内教育についての企画・総括・調整を行う。 また、年に1回、院内研究発表会を開催する。
	接遇マナー			外部講師による指導も受けながら、接遇向上のための活動を行う。 委員は、学んだことを職場に持ち帰って、職員に実践してもらう役目 を担う。
診療録管理委員会		月１回	15名	診療録の管理および活用について、保管・閲覧・紛失防止など 診療録の適正な管理について必要な事項を定める。

11 職員データ

①職員数（令和４年３月31日現在）

項目			上山病院	うえやま腎クリニック	光陽	グループ本部	ユーエスケイ企画	計
所属法人	1	腎愛会	121	22	12	4		159
	2	㈱ユーエスケイ企画	7			6	8	21
	計		128	22	12	10	8	180
勤務状況	1	常勤	75	7	6	6	6	100
	2	日勤	15	10	3			28
	3	短時間勤務	5	1		1	1	8
	4	契約職員	1	1	1			3
	5	嘱託職員	7	1				8
	6	非常勤	17	1	2	2	1	23
	7	休職	8	1		1		10
	計		128	22	12	10	8	180
性別	1	女性	93	20	8	7	6	134
	2	男性	35	2	4	3	2	46
	計		128	22	12	10	8	180
資格・職種	1	医師	10	1				11
	2	薬剤師	3					3
	3	診療放射線技師	2					2
	4	臨床検査技師	3					3
	5	臨床工学技士	9	2				11
	6	管理栄養士	2					2
	7	看護師	52	12				64
	8	准看護師						0
	9	理学療法士	2					2
	10	作業療法士						0
	11	社会福祉士	2					2
	12	介護福祉士			7			7
	13	ケアスタッフ	18	2	2			22
	14	介護支援専門員			2			2
	15	技士助手	1					1
	16	医療事務	5	2				7
	17	診療情報管理士	1					1
	18	医師事務作業補助者	1					1
	19	クラーク	2					2
	20	運転手	5					5
	21	清掃員	7					7
	22	施設管理	1		1			2
	23	エステティシャン		2				2
	24	事務	2	1		9	1	13
	25	営業管理・営業					5	5
	26	企画				1	2	3
	計		128	22	12	10	8	180

上山病院

2021年度

1. 診療部

2021 年度　活動と実績

＜実績（取組み）＞

当院では、内科的管理と血管外科の医師による外科的管理が可能であり、透析シャント設置術や、バルーンカテーテルを用いた経皮的血管形成術（PTA）が行えることで、バスキュラーアクセス管理を自施設で完結できる環境を整えている。腹膜透析のカテーテル留置術と併せて、院内の手術件数も増加しており、2021 年度透析シャント設置術は 60 件、PTA については 344 件実施に至った。また、患者様の QOL 向上を後押しできるよう、2018 年 6 月に新設した在宅透析センターを中心に、血液透析、腹膜透析、在宅血液透析と、療法選択の幅を広げ、患者様の望む治療ができるような体制を整えている。

また、一般外来（患者様延べ数 月平均 601 名）は慢性腎疾患、高血圧、糖尿病、脂質異常症などを中心に、総合内科的機能を持ち、地域の皆様に広く受診して頂ける病院を目指している。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
シャント設置術件数	29	66	36	60
PTA 施行数	140	134	252	344
一般外来（月平均）	795	712	578	601

患者様のより良い療養生活を維持するために、各種超音波診断装置やCAVI（動脈硬化指標の検査）など、非侵襲的な検査を積極的に行い、脳血管障害、心疾患、生活習慣病など、患者様の予後を悪化させる因子の早期発見に努めている。

また 2020 年 12 月より、患者様が安心して治療を受けられるよう、かかりつけの患者様を対象とした発熱外来を開始した。2022 年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めていく。

・人員配置数

常勤医師5名と非常勤医師6名（2022年4月現在）

＜総括＞

2021 年も新型コロナウイルス感染症の勢いが収まらず、外来診療の制限、手術の延期、入院期間の変更など、診療に様々な制限をせざるを得ない事態となった。

まだ新型コロナウイルス感染症の終息が見えず、様々な対策を取らないといけない中で、他の基幹病院と連携しつつ、今までと変わらず、切れ目のない診療ができるように努力する必要がある。

新型コロナウイルス感染症に対し、重症化リスクが高い透析患者様を抱える当院では、感染疑い透析患者様の検査体制、有症患者様のゾーニング設定を継続し、安心して治療が受けられる体制を取っていきたいと考える。

2. 地域連携室

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 社会資源の活用による患者様 / ご家族様に対する治療サポート
2. 更なる各部署との連携及び情報交換の円滑化
3. 効率的な業務実践、ストレスフリーな業務環境整備及び職員間の連携強化とやりがいのある職場環境の構築

＜実績（取組み）＞

2021 年度前半は新型コロナウイルス感染症の影響で、医療機関との連携が鈍化した時期があったが、下半期は昨年度に比べると大幅に転入院患者様が増加した。その結果、昨年 12 回実施した「介護支援等連携指導」は、2021 年度は 18 回と微増ながら伸ばすことが出来た。また、当院に入院された患者様に対し、退院後のモニタリングを、214 名行うことができた。

腎愛会での介護保険サービス事業の開始に伴い、腎愛会の地域連携室として、当法人の介護関連サービス部署ならびに、今日までお世話になっている他院様や介護関連他事業所様との連携を継続し、その関係性をさらに発展させるべく「地域包括ケアシステム」の考え方にも則した協働に取り組んでいく。

地域連携室医療書類代行作成数

	2019 年	2020 年	2021 年
介護保険主治医意見書	122	112	130
身体障害者意見書	37	37	25
リハビリ診療情報提供書	78	83	88
年金関係書類	23	15	51
訪問看護指示書	170	160	143
介護支援等連携指導書	31	12	18
患者モニタリング	308	299	325

・人員配置数

MSW（社会福祉士）2 名

・業務等

療養中の心理的・社会的問題の解決、転院調整、社会復帰援助、受診受療援助、経済的問題の解決など

＜人材育成＞

・学会 / 研修会参加状況

新型コロナウイルス感染拡大のため、学会等の参加はできなかった。オンラインの研修があったが、参加することができなかった。

2021 年 8 月 24 日　広報デザイン実践講座

＜総括＞

2021 年度前半は、新型コロナウイルス感染症の影響で他医療機関からの紹介が少なく、当院の平均在院患者数が 2020 年並みに減少した。9 月頃より、平均在院患者数が例年通りに回復したが、地域連携室から他機関へのアプローチが少なく、もう少し積極的に行っていれば、間接的ではあるが、入院患者数の増加が見込めたのではないかと考える。

2022 年度は、他機関への積極的アプローチ、介護支援連携指導の積極的取り組みを行っていく。

2022 年度　目標

当たり前のことを当たり前にこなす

1. 各関係機関の担当との関係を強化し、よりスムーズな情報共有、転入院を行えるようにする。
2. 地域連携室内の情報共有を行い、より安定的で質の高い業務を遂行する。

3. 薬剤科

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 薬剤師業務を通じて、安全で質の高い薬物療法の推進に取り組む。
2. 他部門との連携を図り、患者様の入院中から在宅までの服薬アドヒアランス向上に努める。
3. 安全、効率、コスト面からの業務改善と、勤務環境の改善を行い、働きやすくやりがいのある職場をつくる。

＜実績（取組み）＞

安全性、効率性、経済性の観点から積極的に業務改善に取り組み、働きやすい職場環境を目指した 1 年であった。

安全性の観点からは、医師が指示した薬剤を確実に患者様に服用させることができるように、与薬カレンダーを用いた運用に移行した。与薬カレンダーはベッドサイドに配置し、看護師が患者様とともに服用薬剤を確認するシステムに変更したことで、安全な投薬が行えるようになった。電子カルテは処方薬チェック、患者様情報収集の迅速化、業務記録の効率化につながり、薬剤投与の安全性が向上した。調剤時は処方監査を徹底し、疑義が生じた場合は医師へ照会し、適正な調剤に取り組んだ。薬剤管理指導は、コンプライアンス低下患者様を中心に、それぞれの患者様に合った説明・指導を心がけ、患者様のアドヒアランス向上に努めた。新型コロナウイルス感染症に関しては、ワクチンの保管・管理、調製及び治療薬の患者様指導に従事した。

効率性の観点から、院外処方に関する疑義照会専用の直通電話を設置し、薬剤に関する保険薬局からの疑義照会を薬剤科で受ける体制に変更して2年目を迎えた。薬剤師で対応可能な疑義照会を院外処方、院内処方ともプロトコル化し、その内容を追加改善してきたことで医師への照会件数を減らすことができ、業務軽減と効率化につながった。

経済性の観点からは、後発医薬品への変更、使用頻度の低い薬剤の削除、定数・在庫の見直し、仕入単位の小包装化を行い、適正購入、適正在庫に努めた。

・人員配置数

2021 年度は前年度と同じ薬剤師 3 名体制で業務をおこなった。

・科内業務等

処方監査、疑義照会、調剤、調剤監査、持参薬鑑別、薬剤管理指導、薬品管理、DI 業務、配置薬管理、麻薬・向精神薬管理、治験薬管理などの業務に従事した。正確な調剤、わかり易い服薬指導、迅速な情報提供を基本として、患者様から求められる薬剤師、職員から頼りにされる薬剤師を目指して努力した。

・調剤業務

処方箋枚数（2021.4-2022.3）

種 別	枚 数
外来処方箋	792 枚
入院処方箋	3,488 枚
外来注射箋	4,250 枚
入院注射箋	2,825 枚
院外処方箋	15,174 枚

院外処方箋発行率　：95.0%

採用医薬品数　　：674 品目（内服：330 品目、注射：255 品目、外用：89 品目）

後発医薬品採用割合：72.9%

・病棟業務

飲み忘れ、飲み間違いを起こさない服薬を念頭におき、患者様の生活リズムと服薬状況を考慮にいれた薬剤管理指導に努めた。持参薬鑑別では薬剤の情報不足から処方元へ確認する機会が多く、現行の服用薬剤の把握に苦慮することがあった。

薬剤管理指導件数 ：141 件

持参薬鑑別件数　　：294 件

・DI 業務

医師、看護師からの問い合わせに関しては、エビデンスに基づき回答し、回答内容は記録に残す体制とした。問い合わせに対する情報がすみやかに提供できるよう必要な情報は収集し整理しておくこととした。院内で必要と考えられる情報は DI ニュースとして発行した。

院内処方疑義照会件数 ：315 件

院外処方疑義照会件数 ：443 件

DI ニュース発行（7 回）

＜資格の取得＞

資　格	人　数
日病薬病院薬学認定薬剤師	1 名

＜人材育成＞

新型コロナウイルス感染拡大のため学会への現地参加ができず、Web 参加となった。透析病院薬剤師セミナー及び院内研修会で科員が発表した。

・学会 / 研修会参加状況

開催日	学会名
2021.6.16	透析病院薬剤師セミナー （鹿児島）発表
2021.10.9-10	第 31 回日本医療薬学会 （熊本）Web 参加
2021.11.6-7	第 15 回日本腎臓病薬物療法学会 （横浜）Web 参加

・勉強会実施状況等

開催日	研修会名
2021.8.31	当院でのコロナワクチン接種後の 有害事象
2022.3.1	医薬品の安全使用 - 最善を尽くす -

＜総括＞

2021 年度は 3 名体制で、薬物療法向上、連携強化、業務改善、職場環境改善を重要目標として業務を行った。コロナ禍にあり学会・研修会への参加が思うようにできなかったが、各人自己研修に励んだことで、充実した薬剤業務を行うことができた。職場はワークライフバランスの取れた働きやすい環境になってきた。次年度もさらなる飛躍を目指し、常に学ぶ姿勢を持って患者様を中心においた薬剤師業務に努力したい。

2022 年度　目標

薬剤師業務にベストを尽くす

1. 患者様を中心においた安全で質の高い薬物療法を推進する。
2. 他部門との連携を図り、向学心を持って円滑な薬剤師業務を実践する。

4. 検査科　臨床検査チーム

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 質の高い安全な検査の為の検査体制の整備
2. 超音波の読影能力・技術向上・他部位への取り組みの為の外部研修、Web 研修参加及び情報共有
3. コスト意識を念頭にした業務改善及び職場環境づくり

＜実績（取組み）＞

技師によって超音波検査のできる領域にばらつきがあるので複数領域検査できるように取り組んだ。また診療の質の向上の為に透析患者様には他院であまり測定されていない亜鉛、銅、マグネシウム、一般外来患者様には先ほどの亜鉛、銅、マグネシウムに加え、シスタチン C も院内にて実施可能となり当日に結果説明が可能となった。

安全な病院運営の為に新型コロナウイルス抗原検査を実施し、発熱のある患者様、職員に対し速やかに抗原検査を実施し、早めに新型コロナウイルス感染症の陽性患者様を発見でき、クラスターが発生しないよう取り組んできた。

・人員配置数

3 名の検査技師にて業務を行っている。

・科内業務等

生理検査では、（頸部、血管、心、腹部、下肢動脈）エコー検査、ABI、心電図検査を行っている。

また臨床検査では、生化学、血液一般、尿検査などを院内にて行っている。

＜人材育成＞

技師によりエコー検査のできる領域にばらつきがあるので全技師が、すべての領域を検査できるように取り組んでいる。

・学会 / 研修会参加状況

臨床検査学会
超音波検査学会

・勉強会実施状況等

GE ヘルスケアジャパンにおける Web 講座

検査実績（2021 年 04 月～ 2022 年 03 月）

1. 検体検査（件数）

検査項目	年合計	検査項目	年合計
AST	5,965	T-SAT	808
ALT	5,963	HbA1c	1,457
ALP	451	FER	1,584
GGT	5,407	補正 Ca	4,621
LDH(IFCC)	4,495	ALP(IFCC)	4,417
TG	5,515	nonHDL-C	5,514
CRP	1,231	GA(%)	1,440
HDL-C	5,514	血液一般	10,731
BUN	9,886	uCRE	2,896
CRE	10,353	CCR-24H	6
UA	9,754	eGFR	10,353
Na	9,667	WBC 分類	475
K	9,822	尿 Na	2,744
CL	9,667	食塩摂取量	2,713
Ca	9,895	尿一般	4,789
IP	8,713	尿一般 (早)	38
Fe	3,968	M g	4,114
TP	6,222	Cu	609
ALB	6,143	BUN（尿）	25
A/G 比	5,919	CRE	19
T-BiL	191	UIBC	810
LDL-C	5,492	尿蛋白	2,248
Glu	2,350	Cys-C	342
T-CHO	5,522	尿蛋白（補）	2,234
Zn	655		

2. 生体検査（件数）

検査項目	年合計
血管エコー	1,710
心エコー	446
腹部エコー	545
頸部エコー	308
下肢静脈エコー	20
下肢動脈エコー	11
甲状腺エコー	4
心電図	923
ホルター心電図	36

＜総括＞

2021 年度は3名の技師にて業務を行ってきた。

新型コロナウイルス感染症の影響で、抗原検査、PCR 検査件数が年間 458 件にのぼり、検査や試薬の確保や検体採取に相当の時間、労力を要した。

通常業務に支障が出ないように手指衛生、感染対策に注意し、検査科が原因で検査ができないという状況には至らなかった。

ただ、学会や勉強会に参加できなかった。

また、超音波検査の他部位への取り組みが全くできなかったのが反省点である。

2022 年度　目標

精度の高い検査が出来るように最善を尽くす

1. 患者様中心に考え、質の高い安全な検査が出来る体制を整える。
2. 部署内での情報共有を図り、超音波の読影能力・技術向上に努める。

5. 検査科　放射線チーム

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 質の高い安全な検査の為の検査体制の整備
2. 超音波の読影能力・技術向上・他部位への取り組みの為の外部研修、Web 研修参加及び情報共有
3. コスト意識を念頭においた業務改善及び職場環境づくり

＜実績（取組み）＞

これまでは一般撮影、CT撮影、PTA対応、超音波検査へ取り組んできたが、形成外科外来患者様の検査として CT 撮影の指示がされるようになり、どのような画像が必要か考えながら画像作成を行っている。

（CT撮影部位別件数）

頭部CT	60	単純CT	482
胸部CT	137	造影CT	13
腹部CT	367		
頸部CT	0		
四肢CT	4		
合計	568		

（令和 3 年度読影件数）

月	件数	読影回数
4 月	41	5
5 月	37	4
6 月	29	4
7 月	42	5
8 月	36	4
9 月	38	4
10 月	47	5
11 月	44	4
12 月	50	4
1 月	48	4
2 月	51	4
3 月	37	4
合計	500	51

・人員配置数

放射線技師：2 名（2022 年 1 月から 1 名産休）

・科内業務等

胸部・腹部・整形などの一般撮影
頭・胸・腹部・四肢の CT 撮影
透析シャントの PTA
腹部・シャント血管のエコー検査

＜人材育成＞

外部研修や学会等に参加できないため、Web セミナー等でエコー検査の技術・知識向上を図るよう取り組んだ。

・学会 / 研修会参加状況

千代田テクノルウェブセミナー

受講日	セミナー名
2021.7.20	眼の水晶体の等価線量限度の引き下げ等改正の概要と背景
2021.7.27	医療スタッフの放射線安全管理にかかるガイドライン

・勉強会実施状況等

放射線部門で起きたアクシデント事例
（院内医療安全委員会研修）

＜総括＞

2021 年度は技師2名体制で業務を行っていたが、1名産休に入り、2022 年1月から1名体制となった。

これまでは新型コロナウイルス感染症陽性の透析患者様は入院加療となっていたため、当院で画像検査をすることはなかったが、外来透析を当院で行うようになり、当院で画像検査をするようになった。

部署目標に対しては、学会や勉強会になかなか参加できず、超音波検査の技術向上や他部位への取り組みができなかった点が反省点である。

次年度は少しでも技術向上・読影能力向上を図れるよう努めたい。

2022 年度　目標

精度の高い検査が出来るように最善を尽くす

1. 患者様中心に考え、質の高い安全な検査が出来る体制を整える。
2. 部署内での情報共有を図り、超音波の読影能力・技術向上に努める。

（令和 3 年度月毎撮影件数）

	上　山　病　院					うえやま腎クリニック		
	ＣＴ	透析胸部（外来）	透析胸部（入院）	一般撮影	アンギオ・PTA	透析胸部	一般撮影	合計
4月	36	234	12	163	25	72	19	561
5月	36	181	11	61	31	69	3	392
6月	34	242	6	132	19	73	4	510
7月	37	306	13	71	24	71	0	522
8月	41	227	6	58	32	71	0	435
9月	41	228	11	71	33	71	2	457
10月	44	230	11	140	34	69	3	531
11月	46	237	13	89	25	66	1	477
12月	51	233	14	103	33	69	1	504
1月	44	223	11	66	27	70	0	441
2月	52	287	14	64	22	66	0	505
3月	34	252	11	78	26	73	0	474
合計	496	2,880	133	1,096	331	840	33	5,809

6. 臨床工学科

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 質の高い透析を目指した医療機器整備環境の構築及び透析の安全性向上
2. エコー穿刺の業務量適正化及び確実で安全な穿刺業務の推進
3. 相談しやすい科内職場環境整備及び業務量、有事を念頭においた部署編成

＜実績（取組み）＞

質の高い安全な透析・安全確実な穿刺・業務環境の整備等を目標に置き、働きやすい職場を目指した。

質の高い安全な透析では、透析用監視装置 12 台の更新を 10 月に計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて延期となった。各関連業者と連携を密に取り何とか 12 月に実施することができた。

安全確実な穿刺では、臨床工学士が主として行っているエコー下穿刺の技術を看護師へ伝えることで透析室スタッフの穿刺技術のレベルアップを図ってきた。現在、臨床工学技士 5 名と看護師 9 名計 14 名がエコー下穿刺の技術習得を達成できている。

業務環境の整備では、透析機器の定期点検（オーバーホール）を平日透析後の業務時間超過での実施を非透析日の日曜に移行することでスタッフへの業務負担の軽減を図っている。

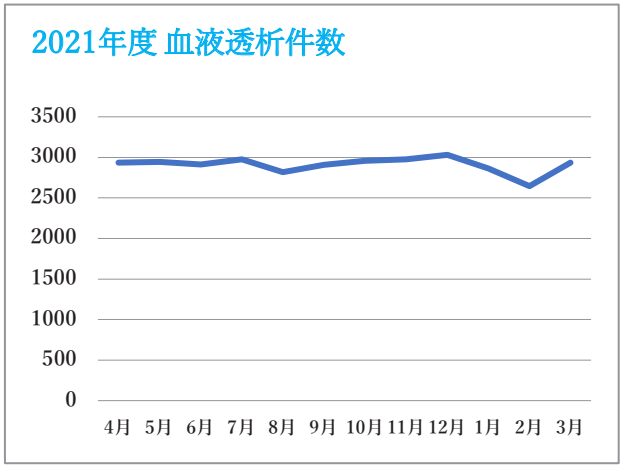
・人員配置数

2021 年度は、11 名から 9 名体制となりスタッフ一人当たりの業務負担が多くなってきたが、スタッフ間の協力体制を整え患者様へ質の高い安全な透析療法の提供に務めている。

・科内業務等

透析業務（プライミング、穿刺、患者様状態確認、透析装置動作確認、返血回収）

医療機器保守管理業務（透析機器日常点検、透析機器定期点検、透析液濃度管理、透析液水質管理、輸液・シリンジポンプ定期点検、生体情報モニタ定期点検）



各装置の点検状況

点検名	装置名	点検頻度
日常点検	RO 装置	毎日（透析日）
	透析液供給装置	
	A 剤溶解装置	
	B 剤溶解装置	
	透析用監視装置	
定期点検	RO 装置	2 回／年
	透析液供給装置	1 回／ 2 年
	A 剤溶解装置	1 回／ 2 年
	B 剤溶解装置	1 回／ 2 年
	透析用監視装置	1 回／年
	輸液ポンプ	1 回／年
	シリンジポンプ	1 回／年
	生体情報モニタ	1 回／年

＜資格の取得＞

資格	人数
透析技術認定士	3 名
認定血液浄化関連臨床工学技士	1 名

＜人材育成＞

新型コロナウイルス感染拡大の影響で日本透析医学会への現地参加はできず Web での参加のみとなった。

・学会 / 研修会参加状況

開催日	学会名
2021.6.4	第 66 回日本透析医学会（横浜） Web 参加

＜総括＞

2021 年度は 11 名から 9 名体制となり部署内で協力体制をとり本年度目標達成に取り組んだ 1 年となった。透析用監視装置の更新は新型コロナウイルス感染症の影響で各メーカーとの日程が合わず透析終了後に平日での実施となったが、スタッフ間で連携をとり、協力し合うことで短時間に更新することができた。

来年度は人員を増やし、臨床工学技士としてのスキルを高め、患者様へ最善の医療を提供できる部署を目指していく。

2022 年度　目標

法人への貢献に最善を尽くす

1. 臨床工学技士としての業務を確実に成し遂げ、法人運営に貢献する。
2. 臨床工学技士としての知識を高め、最善のサービスを提供する。

7. 栄養科

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 治療効果の上がる食事提供と、患者様のライフスタイル・思いに寄り添った実践可能な栄養指導
2. 他部署との情報共有と密接な連携、自部署で何ができるかを常に考えながら行動
3. 仕事にやりがいを持ち、いきいきと働けるような明るい職場環境づくり

＜実績（取組み）＞

1. 業務改善
   - ・効率を考えた物品の配置
   - ・栄養管理ソフトの有効活用
   - ・委託会社との業務線引きの明確化
   - ・栄養士業務分担の明確化
2. 栄養指導内容の充実化
   - ・オリジナルの栄養指導資料作成
   - ・フードサンプルの導入
   - ・栄養指導予約方法の見直し
3. マニュアル・取り決め等の見直し
   - ・食事提供マニュアルの更新

・人員配置数

管理栄養士　　：2 名
日清医療食品職員　：4 名（内 1 名栄養士）
管理栄養士 1 名、日清栄養士 1 名
の人員入れ替えあり

・科内業務等

1. 入院患者様の栄養管理
   - ・栄養管理計画書の作成
   - ・食事内容の調整・アレルギー対応
2. 給食・衛生管理
   - ・献立基準の作成、献立確認
   - ・厨房衛生管理

3. 食数管理

年間提供食数

食　種		年間延べ喫食数	構成比
一般食	経管栄養	1,072	5.0%
	その他	1,309	6.1%
特別食	腎臓病食	18,623	87.2%
	糖尿病食	39	0.2%
	心臓病食	327	1.5%
合　計		21,370	100.0%

4. 栄養指導

年間栄養指導件数　（単位：件、%）

内　容	件　数	対前年比
入院栄養指導	35	36.5
外来栄養指導	44	64.7
合　計	79	48.2

＜人材育成＞

Web 研修等で業務に必要な知識習得に努めた。

・学会 / 研修会参加状況

開催日	研修会名
2021.10.24	鹿児島県栄養士会 Web 研修

＜総括＞

2021 年度は 1 名体制でのスタートとなったが、8 月より臨床経験のある管理栄養士が入職し 2 名体制で業務を行った。業務の効率化・マニュアル化・環境整備を中心に見直しを行い、時代に合った・効率のよい環境へ整備することができた。

次年度は、管理栄養士業務を充実させ、早期に栄養介入ができる様、多職種連携･組織作りに努めたい。

2022 年度　目標

管理栄養士業務を充実させる

1. 患者様のライフスタイルや思いに寄り添った食事提供や栄養指導を行う。
2. 向上心を常にもち、部署･他部署間でのコミュニケーションを積極的に取る。

8. リハビリテーション科

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 退院後の安心した在宅生活の為に、患者様に寄り添った入院中のリハビリテーションに努める
2. 他病院、他施設との連携強化に努めるとともに、必要に応じて医療保険から介護保険利用によるリハビリテーション移行システムの構築
3. 個人が責任感を持ち意見を尊重できる働きやすい職場環境作り

＜実績（取組み）＞

リハビリテーション科は 2015 年に開設され、運動器リハビリテーションに取り組んできた。2018 年 6 月より指定居宅サービス事業者及び指定介護サービス事業者の指定を受け訪問リハビリテーション・介護予防訪問リハビリテーションが開始となり、現在では患者様の安心した在宅生活を目指し、入院中のリハビリテーションから在宅復帰後のリハビリテーションまで幅広く取り組んでいる。

・人員配置数

2021 年度は 3 名から 2 名体制となったが、個人が責任を持ちながら患者様の安心した在宅生活を目指し、日々奮闘している。

・科内業務等

①個別リハビリテーション
②退院前訪問
③退院前カンファレンス
④訪問リハビリテーション
　介護予防訪問リハビリテーション

【入院リハビリテーション介入件数】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
166	203	264	281	338	295
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
390	351	227	225	225	175

【訪問リハビリテーション介入単位数】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
162	167	180	172	174	159
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
159	206	167	130	92	154

＜資格の取得＞

腎臓リハビリテーション指導士　1 名

＜人材育成＞

新型コロナウイルス感染拡大の影響にて現地での研修参加は積極的に行えず、部署内での勉強会にて技術・知識向上に努めた。

・学会 / 研修会参加状況

新型コロナウイルス感染拡大の影響で現地参加が困難な事もあり、来年度はオンラインシステムを活用しながら積極的に学会・研修会に参加していきたい。

・勉強会実施状況等

2 ヶ月に 1 回、リハビリテーション科内にて訪問リハビリテーションに関しての研修を行った。

＜総括＞

2021 年度は退院後の安心した在宅生活の為に、患者様に寄り添った入院中のリハビリテーションを努めてきた。退院後の生活に不安がある患者様に訪問リハビリテーションにてリハビリテーションを継続する等、途切れ無いリハビリテーションにも取り組んだ。また、腎臓リハビリテーション指導士が透析患者様宅に訪問してリハビリテーションを実施しており、慢性腎不全患者様、血液透析患者様に対しより質の高いリハビリテーションを提供することが出来た。来年度は透析時運動指導加算獲得を目指し邁進していきたい。

2022 年度　目標

患者様の思いに応える

1. 患者様の思いを確認しながら、医学的根拠に基づいたリハビリテーションを提供する。
2. 良質なコミュニケーションを図るとともに個人が責任をもってリハビリテーションを提供する。

9. 看護部

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 人間としての生命の尊厳と権利を尊重し、意思決定を支える看護・介護力を養い、その人らしく生きる事を支援する
2. 院内・外との連携充実による受け持ち及び担当看護師（介護士）として役割を全うする
3. 助け合う職場環境をスローガンとし、各々が持つ看護観、やりがい感を語り、育み、看護職の定着度を向上させる

＜実績（取組み）＞

- 看護職員の適材適所を考えた人員配置
- 看護職員の健康管理と面談の実施
- 新入職者のフォロー（年 4 回の面談実施）
- 透析患者様、入院患者様への安全・安心な看護提供のシステム作りと所属長のフォロー
  （受け持ち患者様の基本情報収集の推進）
- 院内合同カンファレンスへの参加と患者様問題の共有・解決案等への積極的参画
- 高齢者福祉複合施設「光陽」のヘルパーステーションの管理業務
- 新型コロナウイルス感染症に対する感染対策と陽性者（患者様・職員）の対応等のシステム作り
- 2F 透析室ケアスタッフによるサービス付き高齢者向け住宅「光陽」との連携（夜勤応援の実施）

・人員配置数

看護師　　2 名
クラーク　　3 名（パート 1 名含む）

・部内業務等

看護師
- 入職者の支援と育成フォロー
- 入職後のフォロー面談
- 他部署研修の計画と実施支援
- 看護協会研修申し込みとフォロー
- 院内研修の企画と開催

クラーク
- 各部署での看護業務補助
- 透析スケジュール・ベッド表作成
- 透析条件変更入力
- 検査データの抽出と管理
- 資材の受注・発注・管理

＜資格の取得＞

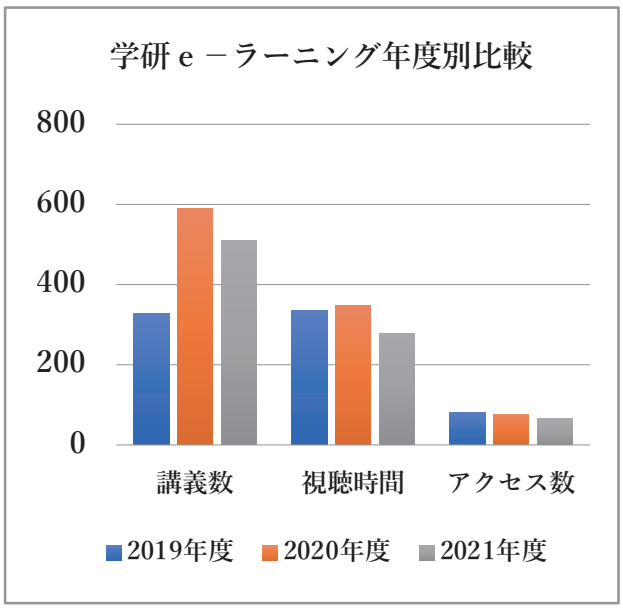
認定看護管理者教育課程
ファーストレベル　　1 名（透析室師長）
糖尿病重症化予防（フットケア）2 名（看護師）

＜人材育成＞

クリニカルラダーレベル取得
レベルⅠ　4 名
レベルⅡ　1 名
レベルⅣ　1 名

・学会 / 研修会参加状況

e－ラーニング視聴
看護協会研修参加



・勉強会実施状況等

2021 年 11 月 19 日
「COVID-19　透析支援事業のシステム構築と実践報告」
参加者：　7 名

2021 年 11 月 30 日
「2022 年度診療報酬改定×COVID-19 ×病院経営」
参加者：　10 名

2021 年 12 月 21 日
「シャント管理と注意点」　参加者：　9 名

2022 年 1 月 28 日
「県の感染動向と院内クラスターの発生時の対応」
参加施設：36 施設

＜総括＞

2021 年度は、3 年ぶりに新卒新人 1 名と経験者 1 名を迎えスタート、入職率 16%、離職率 10%であった。中でも、新卒新人が半年後に退職に至った点は、ここ 10 年の中で初めての経験であり、所属部署は勿論、看護管理者の全員がショックを受けた。新人指導の在り方、サポート体制の見直しは検討課題であるが、今世代の新人を受け入れる心構えが看護部全体に必要な事であったと反省する。

教育、研修に関しては、コロナ禍の中、なかなか思うような形で研修を開催することはできなかった。しかし、タイムリーに必要な研修、スタッフから要望のあった研修は感染対策に細心の注意を払いながら開催することができた。一方で、看護部の教育システム、クリニカルラダーのレベル取得が、6 名と低いことは残念である。看護師より自己評価表の提出がありながら、管理者が新型コロナウイルス感染症対応や他の管理業務に追われ対応が後手になったこともあった。現在は自己評価の提出先を変更し対応している。目標管理においては、職員の大多数がe－ラーニング視聴による自己研鑽を個人目標に掲げ取り組んでいる。コロナ禍で、院外研修に容易に参加できない中ではあるが、知識向上や視野拡大を目指し取り組む姿勢が見られた。

2022 年度　目標

ウェルビーイングの向上に努める

1. より良い看護の提供へとつなげるため、看護職一人一人の健康と幸福を考えた、ワーク・ライフバランスやメンタルヘルスのケアに努める。
2. 被爆、感染、ハラスメント、暴力などのない健全で安全な職場環境を作る。

10. 外来・手術室

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. かかりつけ医として選ばれるとともに、患者様に必要な情報提供と支援の実践
2. 腎愛会各部署と連携を図り、在宅医療・看護支援への取組み
3. コスト意識をベースにした 5S 活動・業務改善

＜実績（取組み）＞

・ 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症対策として発熱外来の継続

透析患者様、一般外来、職員の新型コロナワクチン接種

・ その他の取り組み

看護師による在宅療養指導（30 分以上）

看護師による SDM の継続

・人員配置数

看護師　　：6 名（内パート 1 名）

看護クラーク ：1 名

・業務等

外来診療業務（診察介助・採血・検査案内・注射など）

手術・中材管理（透析シャント関連・PTA・CAPD カテーテル関連等の間接介助）

CAPD、HHD の在宅透析看護

看護師が行う腎代替療法選択説明＝ SDM

＜資格＞

糖尿病療養指導士　：1 名

透析技術認定士　　：1 名

＜人材育成＞

・学会 / 研修会参加状況・勉強会実施状況等

糖尿病教育看護学会学術集会 9 月（WEB）

糖尿病医療連携体制講習会

SDM 看護師育成中

クリニカルラダーⅣ取得

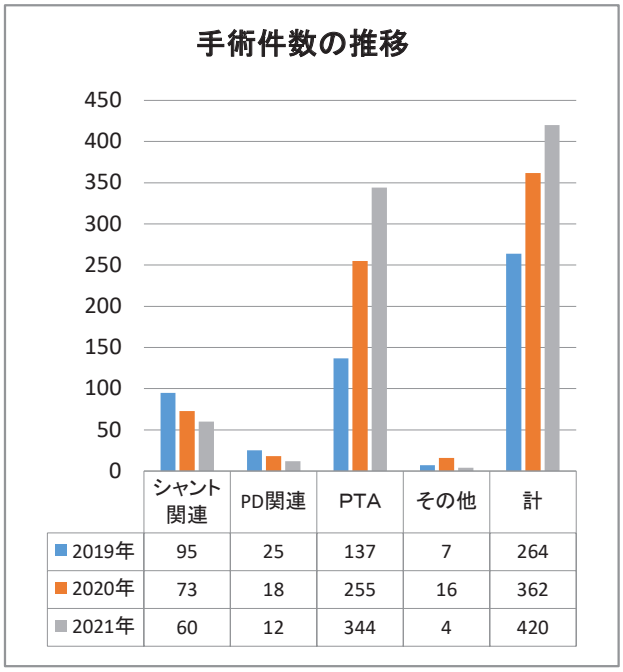
PD教育セミナーWEB受講（2 名）

＜禁煙外来＞

	2019 年度	2020 年度	2021 年度
新規受診者数	7	9	2
成功者数	3	3	1

※これまでの総数 154 名受診中 53 名成功

※ 2021 年 8 月より禁煙外来新規患者様の受付を中止



＜総括＞

1. 新型コロナウイルス感染症

2021 年度も新型コロナウイルス感染症対策として、発熱外来や新型コロナワクチン（2 回目・3 回目）接種を積極的に実施した。また、スタッフの手指消毒についても、感染委員会メンバーの声掛けや、各個人の意識向上により 2022 年 2 月は、1 患者様あたり 6.04 回（← 2021 年 2 月 1.93 回）と増えており、2022 年度は 8 回を目標に院内感染対策に取り組む予定である。

2. 手術関連・その他

PTA 増加の背景には、患者様の高齢化や他の病院からの依頼が増えたことが考えられ、コロナ禍ではあるが、感染に十分配慮し他施設からの手術依頼を積極的に受けいれていく。

看護師による SDM も継続的に実施しており、2021 年度の SDM 実施患者数は 9 名となっている。今後も、透析導入する患者様に不安なく納得した治療を受けて頂くために、日々学習し信頼の看護ができるよう取り組む。

2022 年度　目標

自己の看護力を発揮する

1. 緊急の診察、処置、手術などに迅速かつ丁寧な対応ができる。
2. 仕事とプライベートのメリハリをつけ、ワークライフバランスを大事にする。

11. 透析室

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 患者様の QOL を念頭にしたご家族様･医療チーム･地域との連携及び個別性のある看護提供
2. アセスメント能力向上、安全で質の高い看護ケアの実践
3. 思いやりの気持ちと業務改善の推進及び働きやすい職場環境の構築

＜実績（取組み）＞

・ 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症対策として、手指消毒、マスク着用の徹底、必要に応じて文書での周知、声かけを行い、理解に努めた

発熱時抗原検査、PCR 検査実施。陽性時保健所、担当ケアマネージャー、訪問看護師、ヘルパー、入居施設等と連携強化を図った

新型コロナウイルス感染症陽性者：4名（透析患者様 205 名　PDハイブリッド患者様含む）

・ フットケア・フットチェック

フットチェックをトリアージに従い定期的にチェック、ABI 低下患者様は症状確認、心臓血管内科との連携、治療に取り組んだ

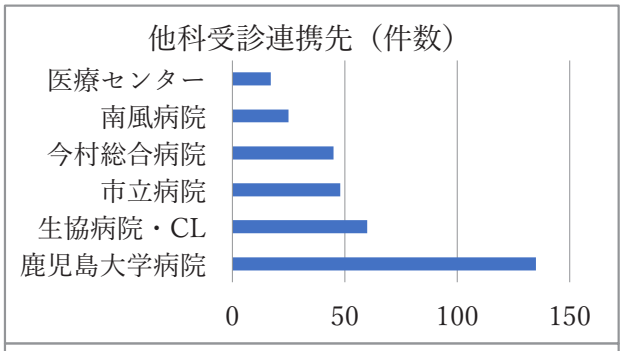
糖尿病患者様にはフットケア加算に従い、定期的にチェック、ケアを施行した

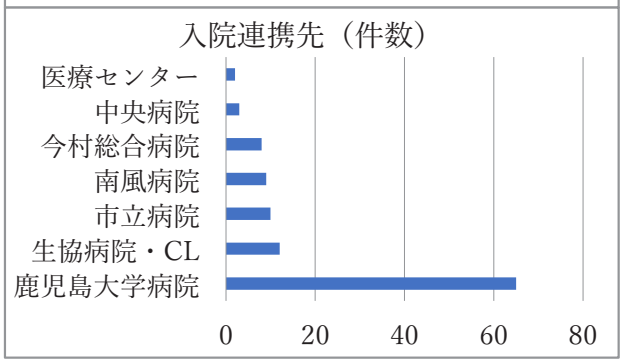
・ 他科連携

他科受診時、診療情報提供書の準備、日程調整などの連携を図った

外来受診　574 件

入院　　110 件（透析室宛て含む）





・ケアカンファレンス

患者様情報収集、計画立案、カンファレンスを行い、個別性のある看護の提供に取り組んだ

・人員配置数

看護師　　：23 名（内短時間2名）

ケアスタッフ：　8名（内委託1名）

・業務等

透析治療の準備、穿刺、回収

透析中の看護、シャント管理と生活指導

フットチェック、フットケア

＜資格の取得＞

鹿児島県地域糖尿病療養指導士　：1名

糖尿病重症化予防（フットケア）　：3名

ケアマネージャー　：1名

介護福祉士　：5名

＜人材育成＞

クリニカルラダーⅠ　：4名
クリニカルラダーⅡ　：1名
ファーストレベル研修：1名

・学会 / 研修会参加状況

e－ラーニング視聴
看護協会研修参加

＜総括＞

患者様の QOL を意識し、ご家族様、地域と連携し看護の提供を図るために、受け持ち看護師が患者様情報収集を再度行い、患者様を取り巻く環境を確認した。介護認定や訪問看護、訪問薬局などのサービス提供を進めるなど取り組むことが出来た。

感染対策では、手指消毒やマスク着用の徹底、発熱や症状がある際の連絡など周知を行い、来院前に把握、検査対応するなど取り組みを行った。しかし、来院されてから症状や発熱があったことを伝える方も見られ、周知徹底はできなかったが、透析室内でのクラスターの発生は見られず、205 名中、4 名と感染対策はできていたと考える。

患者様に安心、安全な透析治療の提供が出来るよう知識技術の向上に努め、看護の提供に努めていきたい。

2022 年度　目標

役割意識を持って、患者様に対応する

1. 受け持ち看護師と医療チームで、患者様問題に取り組む。
2. 業務改善に取り組み、ベッドサイドケアを充実させる。

12. 病 棟

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 患者様を取り巻く院内外との密接な連携、個別性のある入退院支援の実践
2. 看護師・ケアスタッフにおける役割意識（院内活動・受け持ち・スタッフ育成）の醸成及び責任のある看護・介護力の発揮
3. やりがいの醸成及び相互承認をベースとした一致団結できる病棟組織の構築

＜実績＞

血液透析導入	18 名
腹膜透析導入	5 名
入院患者様の手術	112 件
短期 PTA	49 件

・人員配置数

看護師 21 名　ケアスタッフ 10 名

・業務等

当病棟は医療療養型病床 40 床と血液透析 17 床の治療を行っている。慢性腎不全における療法選択期の保存治療をはじめ、血液・腹膜透析導入期から維持透析期の治療・看護・介護に関し、『患者様及びそのご家族様と協同する』をモットーに提供している。

入院患者様は、年々、高齢化と共に複雑な家庭環境の方が増えている。食事・内服薬・シャント・体重等の自己管理指導を行い、社会資源を必要とする方については、他職種、他施設と連携し、安心して入退院できる環境づくりに取り組んでいる。

患者様及びご家族様が、治療について理解し、納得の上で前向きに取り組める療養環境作りを目指している。医師をはじめ薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、理学療法士と連携を密にとり、安心して退院後の生活へ移行できるよう病棟看護師が中心的役割を担っている。維持透析患者様においては、自宅や施設との連携がスムーズとなるよう、電話連絡だけでなく連絡帳を活用している。

＜資格の取得＞

糖尿病重症化予防フットケア研修終了　1 名

＜人材育成＞

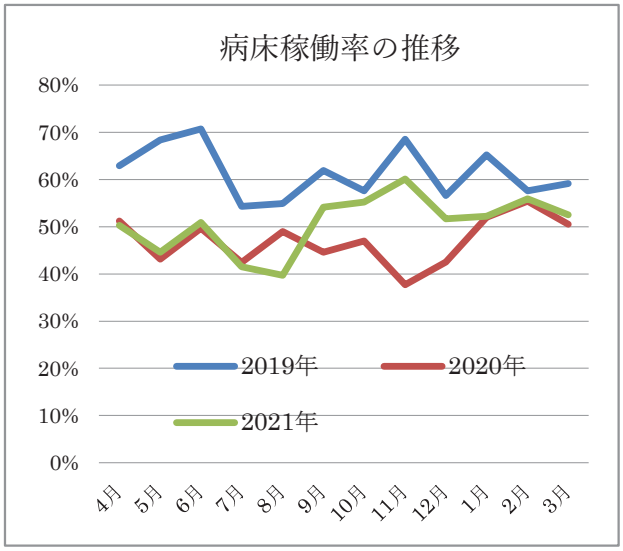
看護師ラダーレベルⅠ取得　1 名
看護師ラダーレベルⅡ取得　1 名

・学会 / 研修会参加状況

新型コロナウイルス感染症対策を行い、口腔ケアや入退院支援の研修に参加

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、主に WEB での研修参加

学研ｅ－ラーニングを活用した知識向上



＜総括＞

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、患者様・ご家族様との面会が制限される中、オンライン面会を取り入れたことで患者様・ご家族様共に気分転換や不安軽減に繋がったと考える。また、血液透析や腹膜透析導入時に必要なご家族様への指導もオンラインを活用して行ったが、手技の実際としては不足である。患者様及びそのご家族様と協同するためにも今後指導に関する内容・方法など検討が必要である。

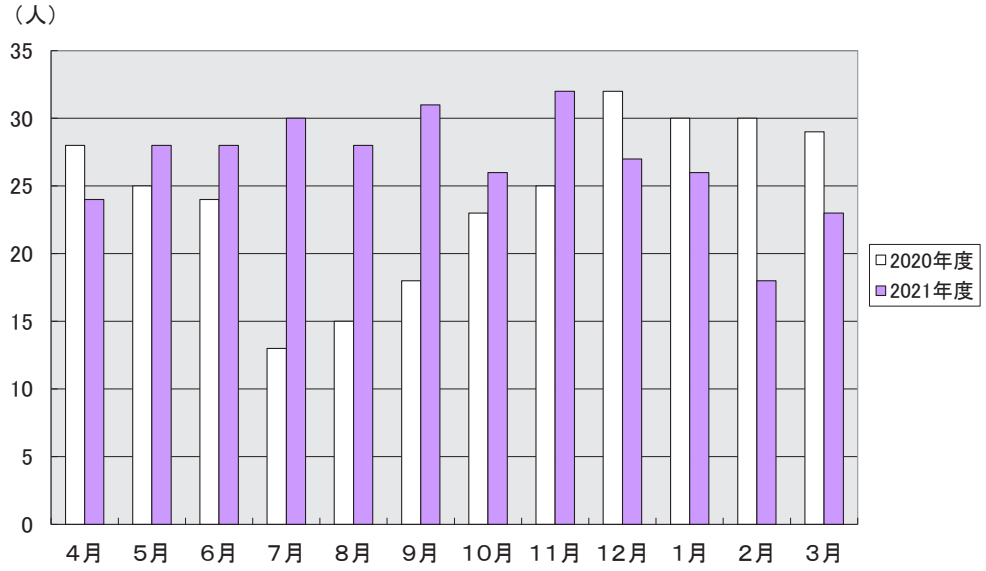
2022 年度　目標

常に患者様・ご家族様の最善を考え行動する

1. 常に「自分の大事な家族」という思いを持ち、温もりある看護ケアの実践
2. 報連相を徹底し、チーム力を高め、質の高い看護ケアの提供

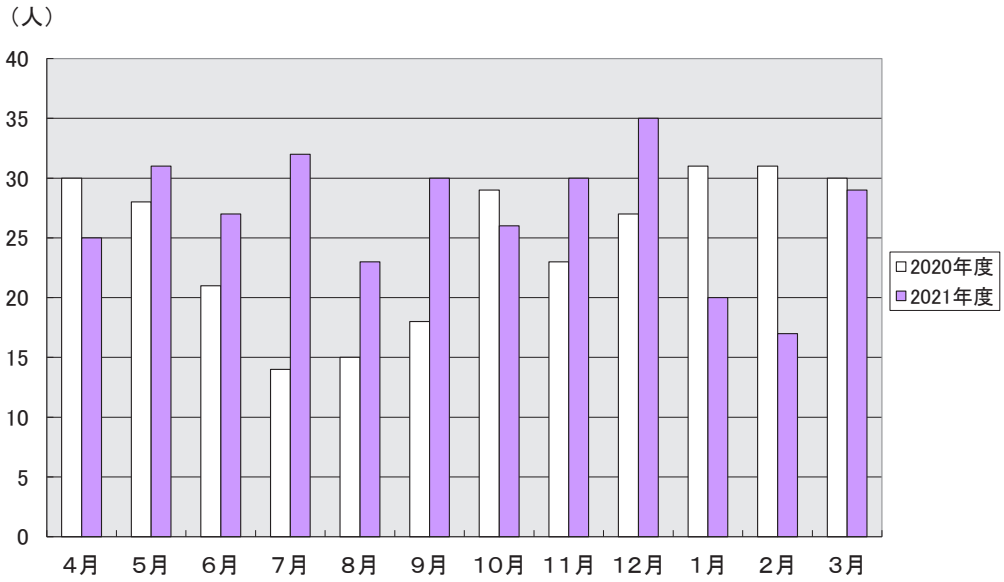
(1) 患者データ

① 新入院患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	28	25	24	13	15	18	23	25	32	30	30	29	292
2021 年度	24	28	28	30	28	31	26	32	27	26	18	23	321

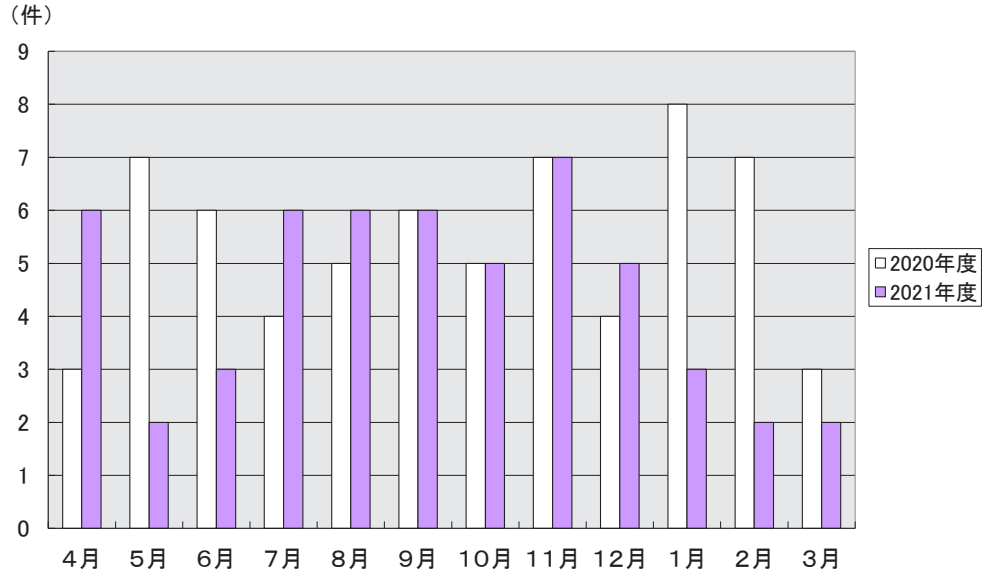
② 退院患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	30	28	21	14	15	18	29	23	27	31	31	30	297
2021 年度	25	31	27	32	23	30	26	30	35	20	17	29	325

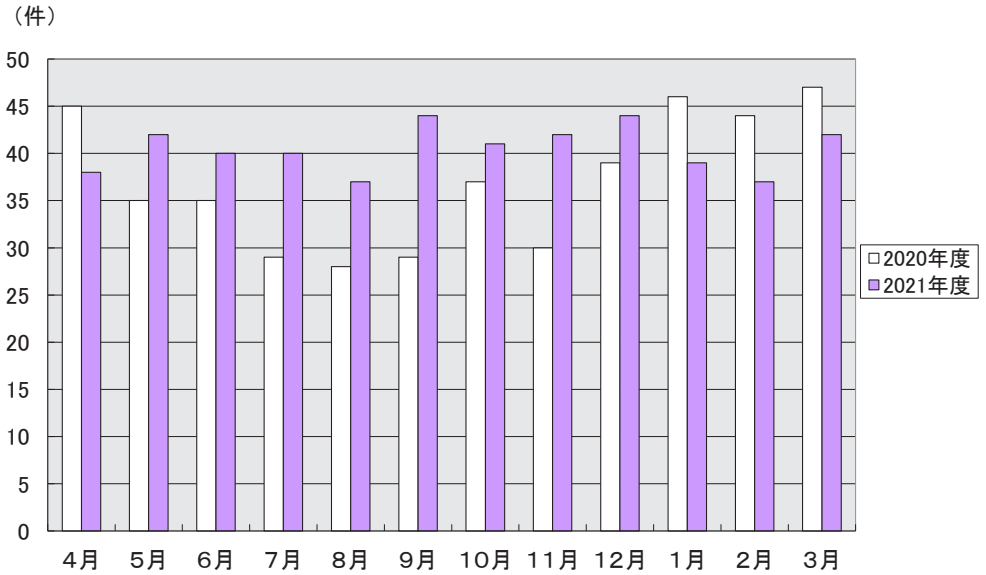
（1）患者データ

③ 入院患者件数（一般）



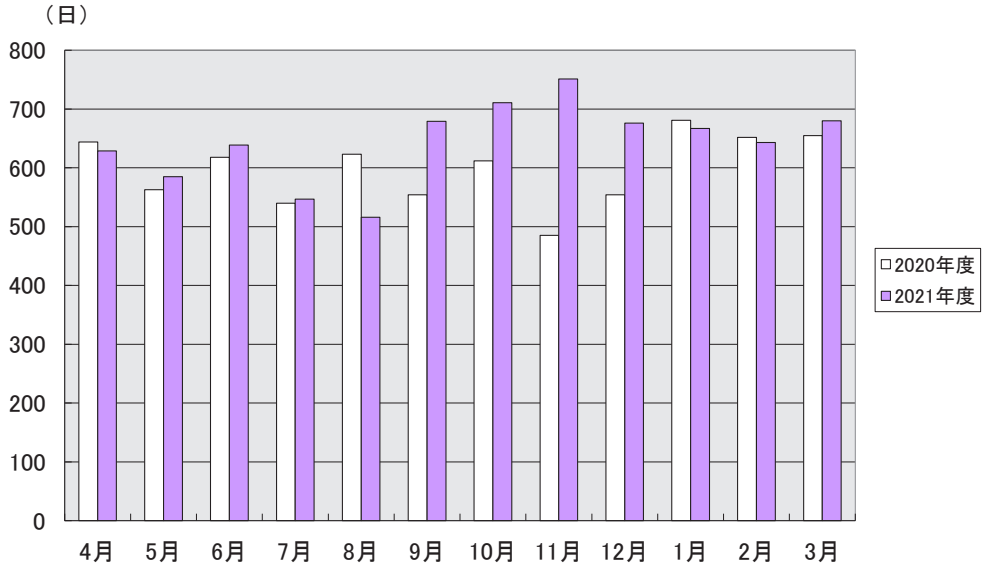
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	3	7	6	4	5	6	5	7	4	8	7	3	65
2021 年度	6	2	3	6	6	6	5	7	5	3	2	2	53

④ 入院患者件数（透析）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	45	35	35	29	28	29	37	30	39	46	44	47	444
2021 年度	38	42	40	40	37	44	41	42	44	39	37	42	486

⑤ 入院日数



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
2020 年度	644	563	618	540	623	554	612	485	554	681	652	655	598.4
2021 年度	629	585	639	547	516	679	711	751	676	667	643	680	643.6

（1）患者データ

⑥ 入・退院患者経路

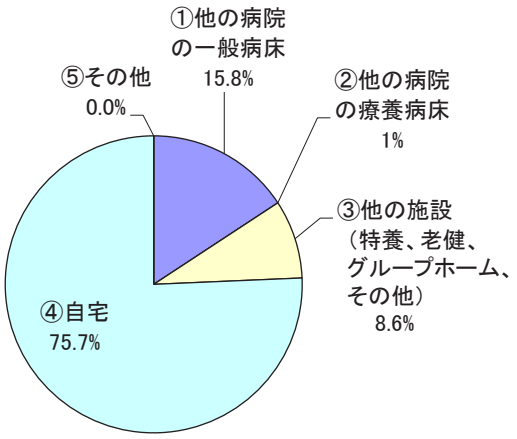
1．入院経路（入院前の居場所）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
①他院の一般病床	3	4	3	5	4	5	4	6	2	6	3	1	46
②他院の療養病床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③他施設（特養、老健、グループホーム、その他）	4	2	0	1	5	1	2	2	1	4	1	2	25
④自宅	7	22	24	23	18	25	17	20	22	16	12	15	221
⑤その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	14	28	27	29	27	31	23	28	25	26	16	18	292

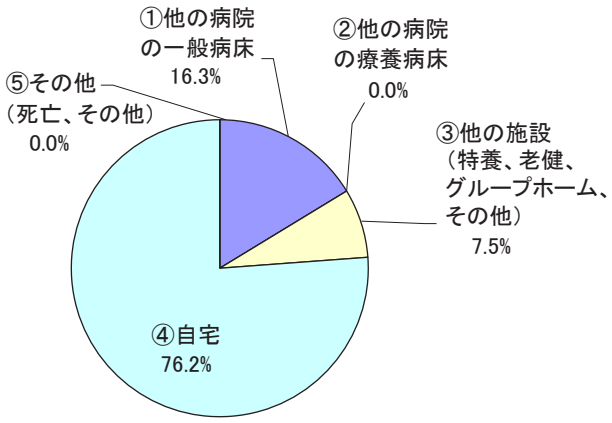
2．退院経路（退院後の行き先）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
①他院の一般病床	1	5	4	7	3	4	4	6	6	2	5	5	52
②他院の療養病床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③他施設（特養、老健、グループホーム、その他）	3	2	1	1	1	3	2	3	2	3	0	3	24
④自宅	19	24	22	24	19	23	19	20	26	15	11	21	243
⑤その他（死亡、その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計	1	1	0	3	0	0	2	3	0	2	2	2	319

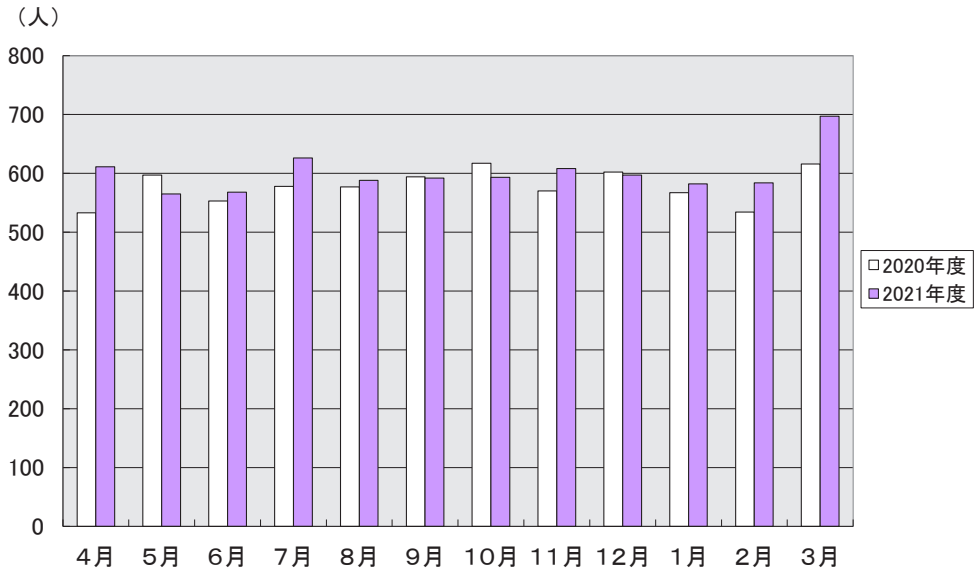
入院経路



退院経路

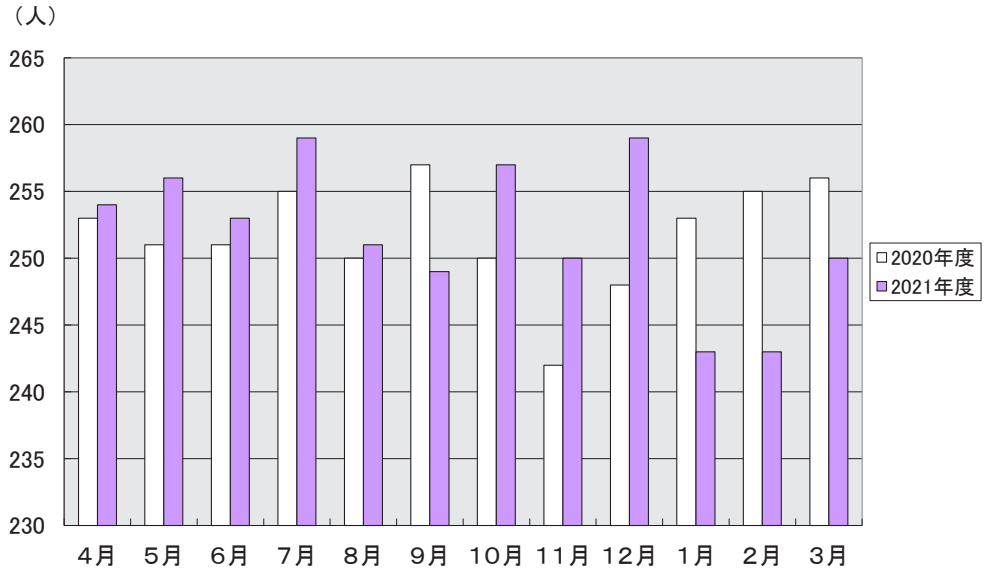


⑦ 外来患者数（一般）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	533	597	553	578	577	594	617	570	602	567	534	616	6,938
2021 年度	611	565	568	626	588	592	593	608	597	582	584	697	7,211

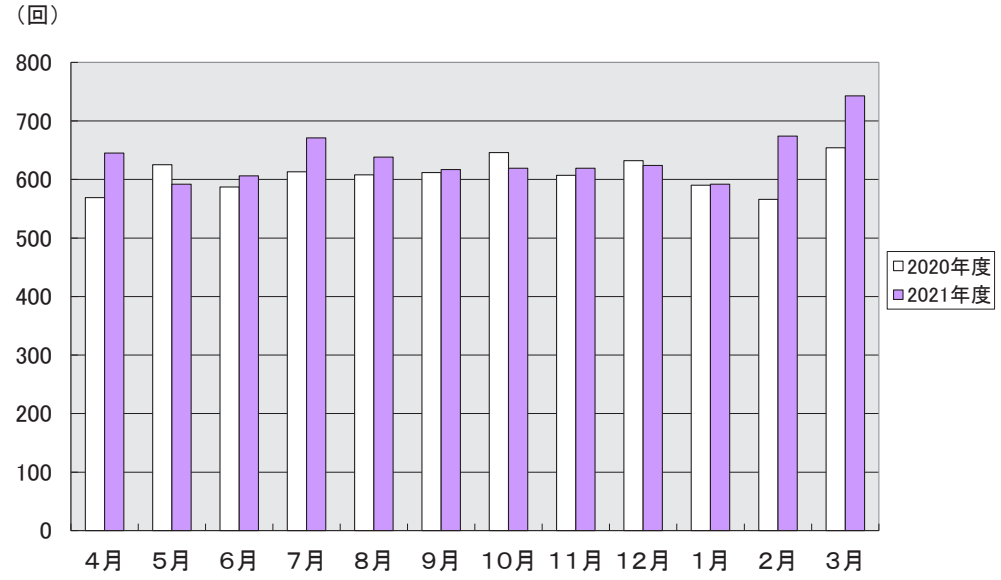
⑧ 外来患者数（透析）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	253	251	251	255	250	257	250	242	248	253	255	256	3,021
2021 年度	254	256	253	259	251	249	257	250	259	243	243	250	3,024

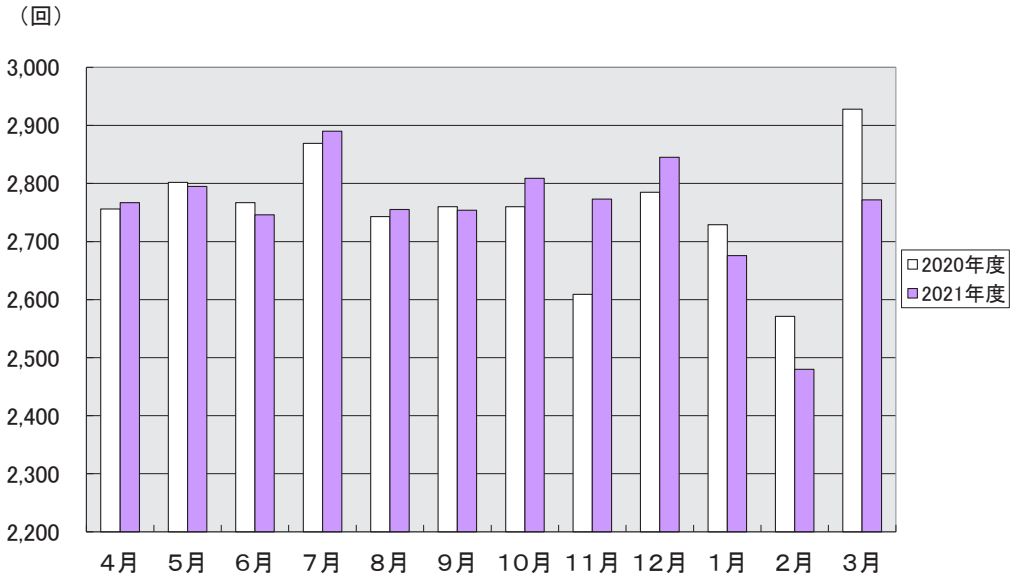
（1）患者データ

⑨ 外来診療回数（一般）



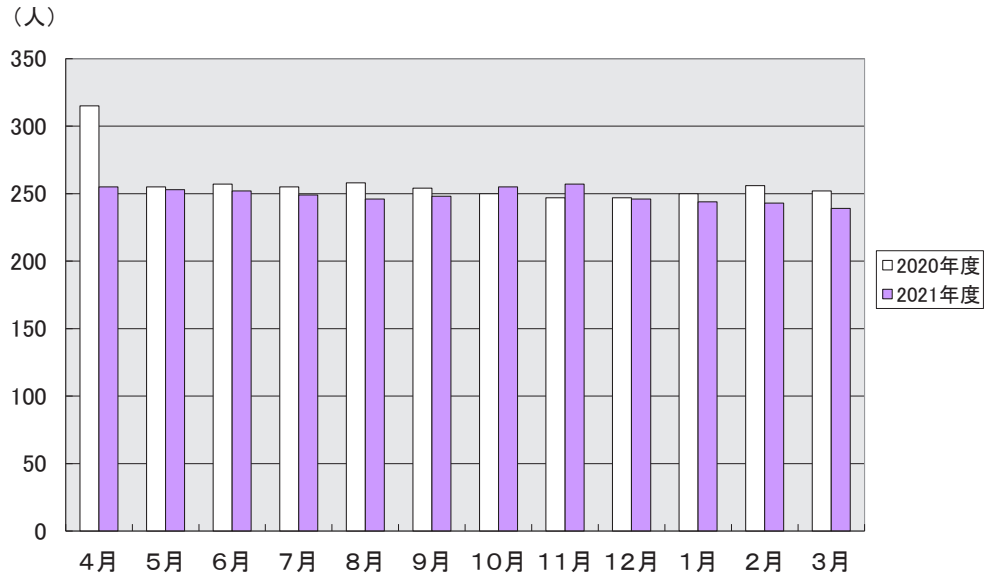
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	569	625	587	613	608	612	646	607	632	590	566	654	7,309
2021 年度	645	592	606	671	638	617	619	619	624	592	674	743	7,640

⑩ 外来診療回数（透析）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	2,756	2,802	2,767	2,869	2,743	2,760	2,760	2,609	2,785	2,729	2,571	2,928	33,079
2021 年度	2,767	2,795	2,746	2,890	2,755	2,754	2,809	2,773	2,845	2,676	2,480	2,772	33,062

⑪ 維持透析患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	315	255	257	255	258	254	250	247	247	250	256	252	3,096
2021 年度	255	253	252	249	246	248	255	257	246	244	243	239	2,987

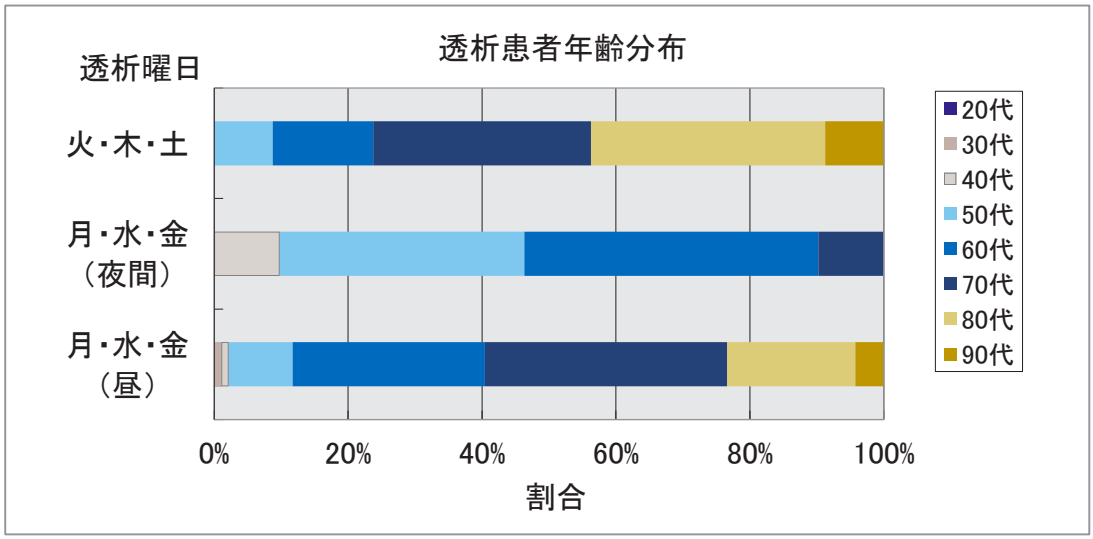
⑫ 健診件数

2021 年度	特定健診			学童腎検	労災二次健診	職場健診	肝炎	前立腺
	国保	社保	情報提供票					
4月	2	2			1	1	0	
5月	5	0				0	0	
6月	5	2				13	0	
7月	1	1		1	1	0	1	
8月	7	2				0	1	
9月	9	1				0	6	
10月	3	3	1		1	16	0	
11月	17	1				6	1	1
12月	6	1	20			0	2	
1月	2	0	1			6	1	
2月	6	0				1	0	
3月	11	1	5			2	2	
小計	74	14	27	1	3	45	14	1
合計	115							

（1）患者データ

⑬ 透析患者年齢分布（2022 年 3 月末現在）　※ 3 階透析室も含む

	月・水・金（昼）	月・水・金（夜間）	火・木・土	合計
20 代				0
30 代	1			1
40 代	1	4		5
50 代	9	15	7	31
60 代	27	18	12	57
70 代	34	4	26	64
80 代	18		28	46
90 代	4		7	11
合計	94	41	80	215



うえやま腎クリニック

2021年度

1

1. 透析室

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 患者様のおかれた環境を知り、意思決定を支える看護の実践。
2. 院内・外との連携充実、受け持ち看護師としての役割を担い、その人らしい生活を支える透析看護を目指す。
3. 互いの信頼関係構築及び意見交換しやすい助け合える職場環境の整備。

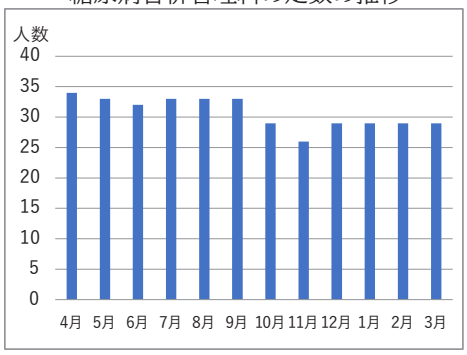
＜実績（取組み）＞

- 安全に透析治療を始められるように、エコーガイド穿刺の使用方法について、研修会を開催し技術向上に努めた。看護師 2 名が技術習得に向けて教育中である。
- 新型コロナウイルス感染対策として発熱時の対応や感染拡大防止への協力を文章で周知し、患者様一人ひとりに声をかけ協力を促した。

抗原・PCR 検査	陽性者
31 件	0人

- 透析患者様 73 名のうち 32 名が、糖尿病合併管理料の対象者であり、月1回30分かけてフットケア・指導を実施した。

糖尿病合併管理料の定数の推移



・人員配置数

看護師　　9 名（嘱託看護師 1 名含む）
ケアスタッフ　2 名（パート 1 名含む）

・業務等

透析治療の準備・穿刺・回収などの医療行為
透析中の看護、健康管理と生活指導
フットケアと指導

＜資格の取得＞

資格	人数
透析技術認定士	3 名
糖尿病重症化予防（フットケア） 鹿児島県地域糖尿病療養指導士	2 名

＜人材育成＞

クリニカルラダー取得に向けて取り組んだ

・学会 / 研修会参加状況

e－ラーニング視聴
看護協会研修参加

・勉強会実施状況等

開催日	内容
2021.7.30	透析患者様とフットケア
2021.8.28	透析濃度異常の対応について
2021.10.6	エコー下穿刺について安全な穿刺方法について
2022.3.25	透析回路内圧上昇の対応について

＜総括＞

2021 年度は目標である、互いの信頼関係構築及び意見交換しやすい助け合える職場環境を整えることが出来た。

感染対策では患者様と一緒に取り組む事が出来た。また、スタッフ協力体制のもと、フットケアの時間を確保し継続することが出来た。今後も患者様と共に「足を目と手で見る」機会を増やし患者様自身が主体性を持ってできるフットケアの提案をして行きたい。

患者様へ安心･安全な透析治療が提供できるように、知識と技術向上に努めて行きたい。

2022 年度　目標

「できない」を「できる！」に変える

1. 受け持ち看護師としての看護を充実させ、より良い透析看護を実践する。
2. 院内・外との連携を図り、互いの信頼関係を構築する。

2. 臨床工学科

2021 年度　活動と実績

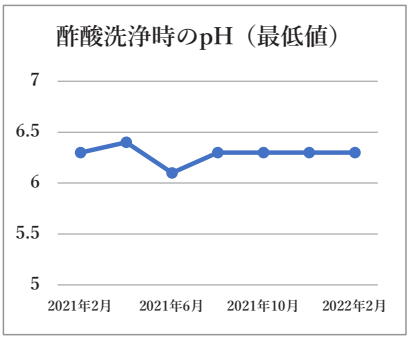
＜ 2021 年度目標＞

1. 安心した透析治療の為の装置管理の徹底
2. 医師、看護師と共に VA 管理の資質向上
3. 互いの信頼関係構築及び意見交換しやすい助け合える職場環境整備

＜実績（取組み）＞

- 2020 年 11 月に透析機械室内設備を一斉更新し新システム運用の1年目となった。
- 簡易型透析排水 pH 中和装置を透析液供給装置と自動連動し運用に成功した。
  酢酸洗浄時の排液 pH を基準値（pH5 ～ pH9）以内に維持した。

酢酸洗浄時排水 pH(最低値) の推移



- 透析患者監視装置 2 台を更新した。
- エコーガイド穿刺技術共有を進めた。看護師2名が技術習得へ向けて教育中である。
- シャント内圧モニタリング評価法を取り入れ VA 管理の一つの指標として運用を始めた。
- シャント機能評価では血流量（FV）、抵抗係数（RI）を測定する為の技術共有を図った。
- 職場環境の整備では、医療機器のメンテナンス技術の能力向上に努め、「できる」「できない」の個人差をなくし、業務内容の公平化を目指した。

・人員配置数

臨床工学技士常勤 2 名、契約職員 1 名

・科内業務等

血液浄化業務、医療機器管理業務、透析液水質管理業務、VA モニタリング、VA エコー評価
電子カルテ管理業務。

＜資格の取得＞

資格	人数
透析技術認定士	1 名
認定血液浄化臨床工学技士	1 名

＜人材育成＞

・県外における各種学会はすべて Web 参加となった。

学会 / 研修会参加状況

時期	学会名
2021.5.12	日本臨床工学技士会 Web 参加
2021.6.4	日本透析医学会 ポスター発表「透析排水 pH 中和システムの構築」
2021.9.18	日本在宅血液透析学会 Web 参加

勉強会実施状況（カンファレンス）

開催日	内容
2021.10.6	エコーガイド穿刺について 安全な穿刺の為のエコーの使用方法について
2021.8.28	透析液濃度異常の対応について（カンファレンス）
2022.3.25	透析回路内圧上昇時の対応について（カンファレンス）

＜総括＞

年度目標に沿った取り組みを実現できた。
安心で安全な医療を実現させていく為には専門的知識と技術を学び他職種との連携を図る事が必要である。

2022 年度　目標

「できない」を「できる！」に変える

1. 患者様の変化、要望に対し、柔軟に臨機応変に対応できる透析技術を提供する。
2. 人材育成：技士力を向上させる。

3. 外来・手術室

2021 年度　活動と実績

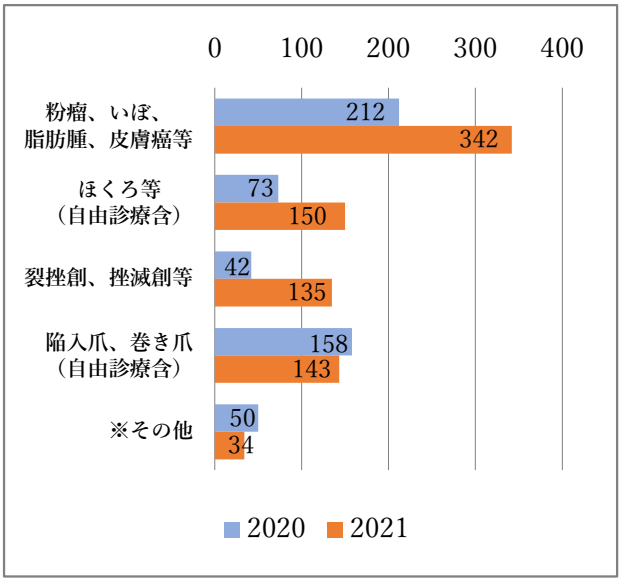
＜ 2021 年度目標＞

1. 患者様のおかれた環境を知り、意思決定を支える看護の実践。
2. その人らしい生活を支える看護を目指す。
3. 院内・院外の連携を図る。

＜実績（取組み）＞

- 粉瘤・血管拡張性肉芽腫・母斑（ほくろ）・疣贅（イボ）・稗粒腫・アクロコルドン・軟性線維腫・ボーエン病・基底細胞がん・有棘細胞がん・外傷・新鮮外傷・傷跡などに対応した。
- 眼瞼下垂と腋臭症の手術や、腋窩多汗症におけるボトックス治療を行っている。
- フットケアは巻き爪・陥入爪・胼胝・鶏眼などの処置を行った。
- 新たに、自由診療における婦人科形成手術も開始した。

＜ 2021 年度　手術件数＞



※その他は眼瞼下垂、腋臭症、婦人科形成手術等が該当します

・人員配置数

看護師　２名

・業務等

外来診療業務（診察介助・採血・検査案内・注射など）手術・中材管理

自由診療おける業務（医療脱毛・採血・点滴・静脈注射・婦人科形成手術）

＜人材育成＞

クリニカルラダーへの取り組み

・学会 / 研修会参加

ｅ－ラーニング視聴

・勉強会実施状況等

９月　医療脱毛勉強会

医療脱毛を開始したため、看護師対応となり勉強会を行った。

部署内で研究発表（年２回）

４月　フットケアについて

11 月　課題発表

＜総括＞

手術の件数は昨年度と比べて大幅に増えた。患者様の手術前後の不安な気持ちに寄り添い、安心して治療を行えるような看護ケアの実践に努めた。フットケアについては、自由診療と連携し矯正インソールを併用しながら足病変の根本的原因解決を目指し、足病変の起こりにくい足づくりと普段から患者様自身が足へ関心を持って生活できるように取り組むことが出来た。

今後も患者様自身の意識を変えられるような関わりを大切にし、ここに来てよかったと思っていただけるようなクリニックを目指していく。

2022 年度　目標

「できない」を「できる！」に変える

1. 思いやり気配りを意識し、お客様それぞれに合ったサービスを提供する。
2. スタッフ一同で知識の向上をし、技術の質を高め、チーム力を高める。

4. 事業課(ビューティー・コア・サポート★)

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. お客様のニーズを念頭においた、知識 / 技術の向上及び継続利用を目指した企画やメニューの考案
2. 「健康で美しく、いきいきと生活する」ための情報発信及び利用しやすいクリニックの整備
3. スタッフ自ら体づくりへ取り組み、心身ともに健全な生活の実践。職員に対する健康と美に関する情報発信

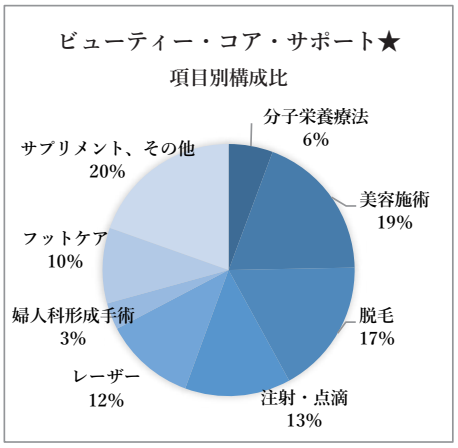
＜実績（取組み）＞

ビューティー・コア・サポートは 2017 年度より始めた事業で 4 年目となる。時代に合わせた最新の治療を常に模索し、10 年先、20 年先を見据えた情報を提供することで、健康な人生設計をサポートする自由診療を行っている。「身体の内側から」のアプローチの基本となる分子栄養療法や「身体の外側から」をアプローチしていくための美容施術や美容点滴、フットケアなどを行っている。より多くの皆様に知って頂くために、ホームページの内容を充実させ、ブログやインスタグラムでの情報発信を常に行っている。ホームページ閲覧やネット検索で来院される方が多くなってきている為、SNS での広報に力を入れている。

今年度は新たに婦人科形成外科手術を始め、また医療脱毛機ソプラノアイスプラチナムを導入。

「身体の中からも外からもきれいに」を目指して、情報発信は勿論の事、施術の知識やスキルアップに取り組んでいる。

また、お客様に気軽に体験していただくために、毎月キャンペーンを企画している。



・人員配置数

看護師　2 名（形成外科と兼務）
エステティシャン 2 名　事務職員 1 名

・課内業務等

①分子栄養療法
②美容施術
③サプリメント・化粧品類の販売

＜人材育成＞

接遇研修
カウンセリング研修
技術チェック

・学会 / 研修会参加状況

MSS オンライン研修（9 月 ）

・勉強会実施状況等

部署内で研究発表（年 2 回）
4 月　フットケアについて
11 月　課題発表

＜総括＞

2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、健康や美容への投資も増えているように思う。女性だけでなく男性のお客様も増えてきている。中でもフットケア、巻き爪治療の方が増加しており、当クリニックではそれらの原因となる姿勢や歩き方、靴・インソール選びなどを重要視し、お客様に伝えている。2021 年度に引き続き、2022 年度もフットケアに関しての情報発信やスタッフの技術アップを目指していく。

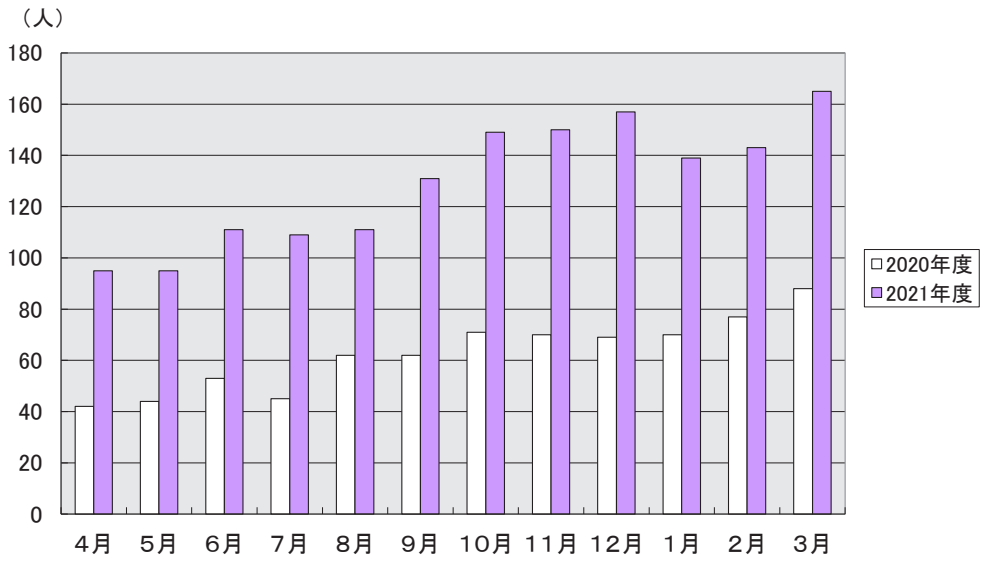
2022 年度　目標

「できない」を「できる！」に変える

1. 思いやり気配りを意識し、お客様それぞれに合ったサービスを提供する。
2. スタッフ一同で知識の向上をし、技術の質を高め、チーム力を高める。

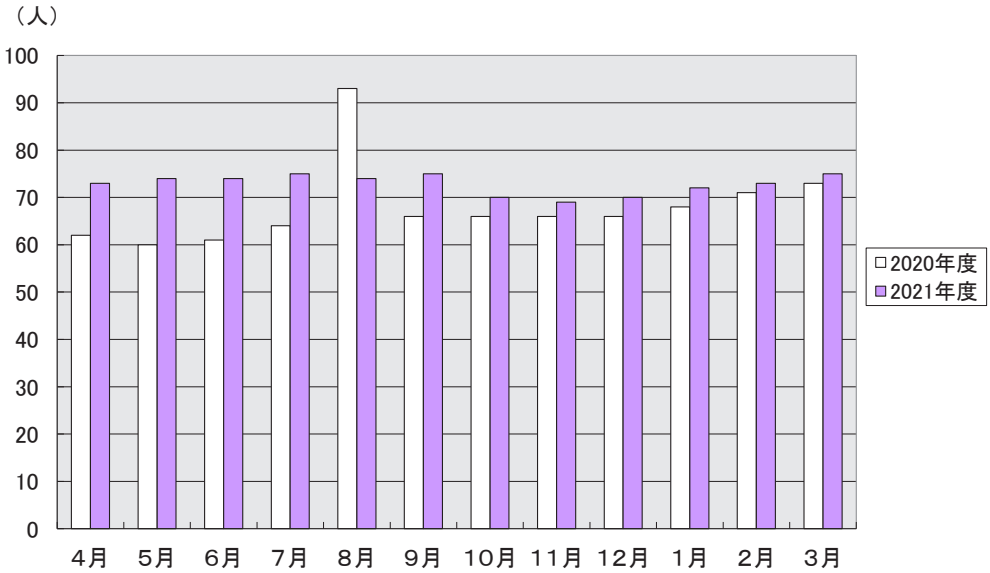
2 （1）患者データ

① 外来患者数（一般）



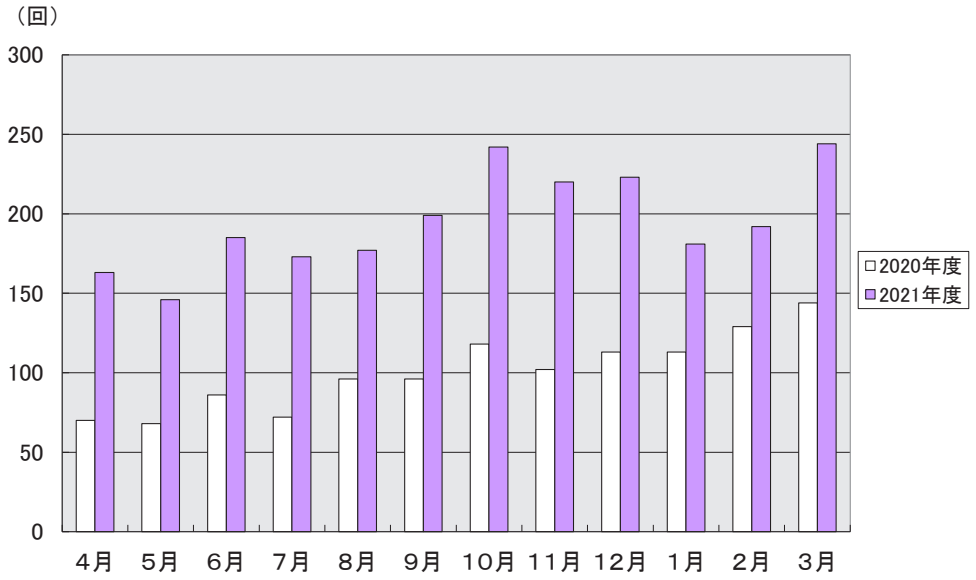
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	42	44	53	45	62	62	71	70	69	70	77	88	753
2021 年度	95	95	111	109	111	131	149	150	157	139	143	165	1,555

② 外来患者数（透析）



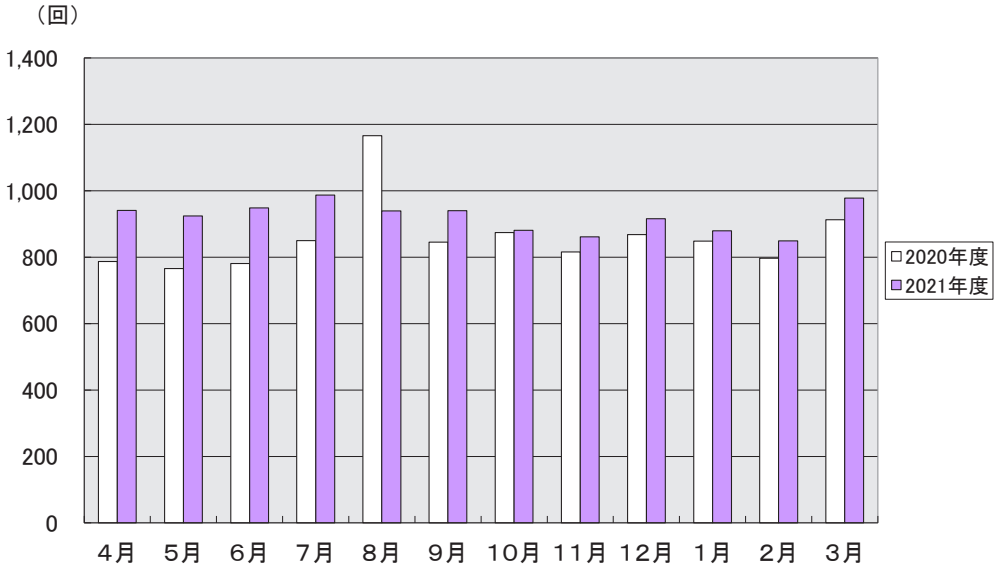
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	62	60	61	64	93	66	66	66	66	68	71	73	816
2021 年度	73	74	74	75	74	75	70	69	70	72	73	75	874

③ 外来診療回数（一般）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	70	68	86	72	96	96	118	102	113	113	129	144	1,207
2021 年度	163	146	185	173	177	199	242	220	223	181	192	244	2,345

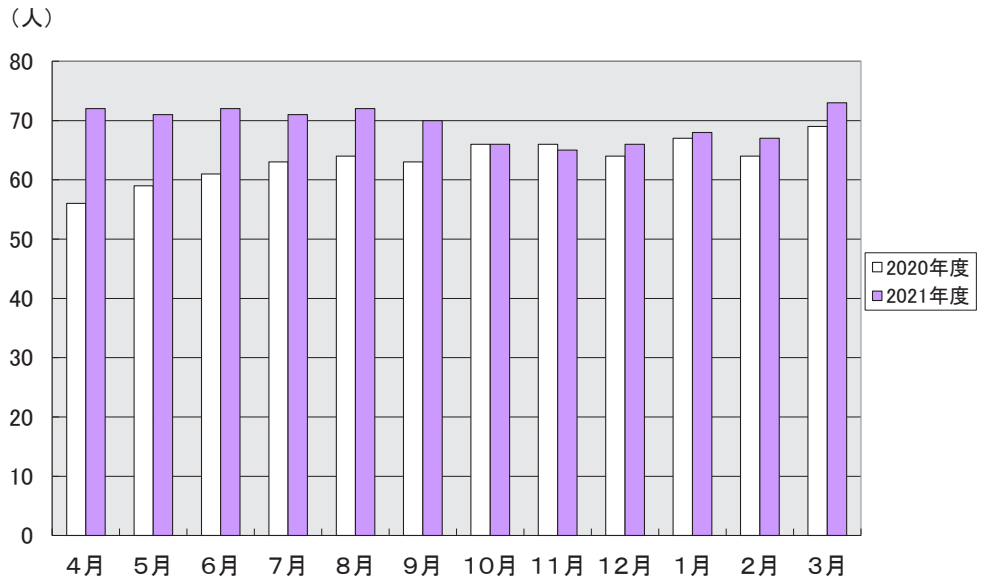
④ 外来診療回数（透析）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	787	766	781	850	1,166	845	874	816	868	848	797	913	10,311
2021 年度	941	924	948	987	939	940	881	861	916	879	849	978	11,043

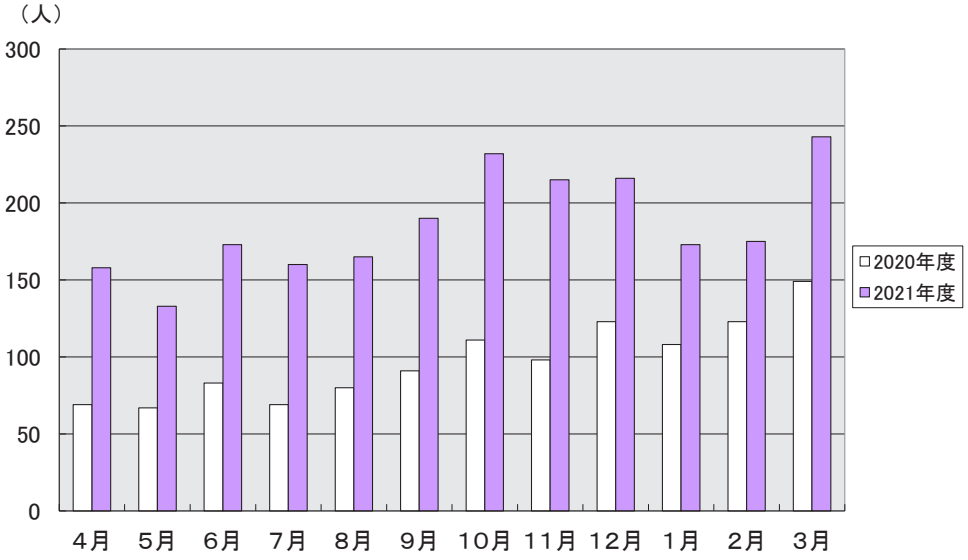
（1）患者データ

⑤ 維持透析患者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	56	59	61	63	64	63	66	66	64	67	64	69	762
2021 年度	72	71	72	71	72	70	66	65	66	68	67	73	833

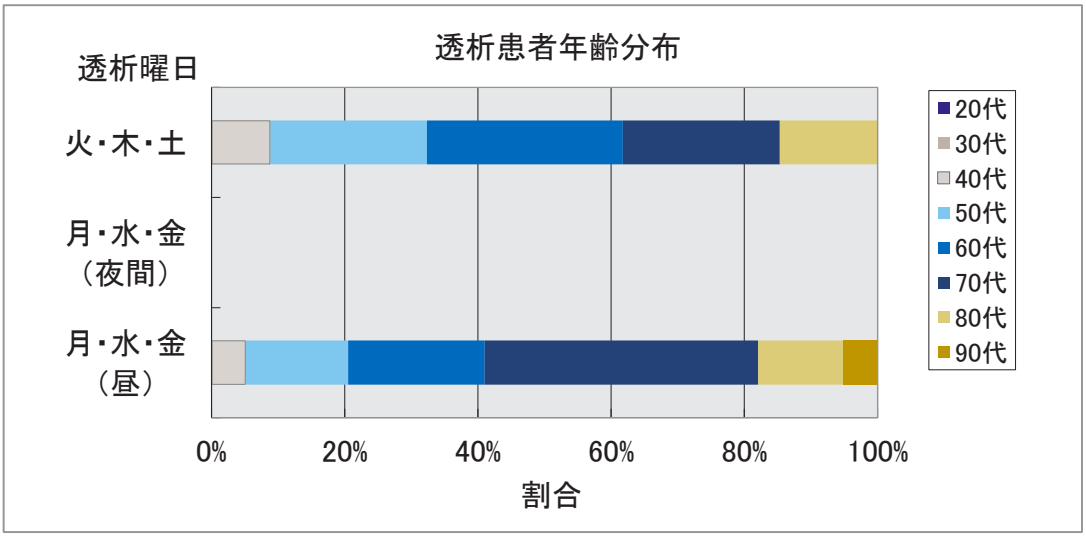
⑥ 外来患者数（形成）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020 年度	69	67	83	69	80	91	111	98	123	108	123	149	1,171
2021 年度	158	133	173	160	165	190	232	215	216	173	175	243	2,233

⑦ 透析患者年齢分布（2022 年 3 月末現在）

	月・水・金（昼）	月・水・金（夜間）	火・木・土	合計
20 代				0
30 代				0
40 代	2		3	5
50 代	6		8	14
60 代	8		10	18
70 代	16		8	24
80 代	5		5	10
90 代	2			2
合計	39		34	73



高齢者福祉複合施設 光陽

2021年度

1. 高齢者福祉複合施設「光陽」

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 入居者様の安心・安全な生活を目指した環境づくり及び快適な居住空間の整備
2. 常時居室満室を目指した適切な空室管理の実践
3. 職員間の連携促進と雰囲気の良く働きやすい職場環境づくり

＜実績（取組み）＞

入居者様やご利用者様が安心して暮らせる体制を堅持する為、2021 年度も新型コロナウイルス感染症への対応に追われた一年だった。上山病院に準ずる感染対策を継続し、入館時の検温・体調確認を実施し、感染リスクに対処した。

入居者様とご家族様との交流にあたり、屋外での面会やオンライン面会など、可能な限り対応に努め、様々なニーズに対応できるよう支援体制の強化に努めた。

・人員配置数

施設管理者	1名
介護福祉士	7名
介護職員	2名
介護支援専門員	2名

・業務等

サービス付き高齢者向け住宅

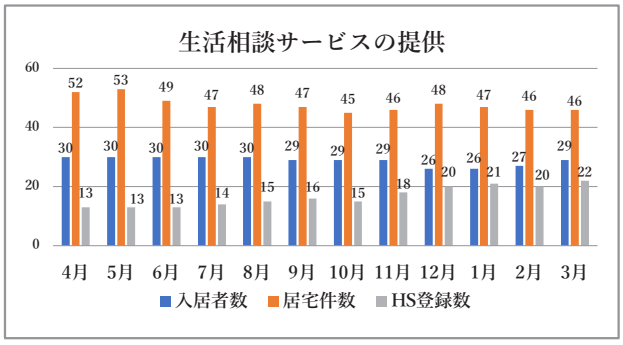
・入退居対応、透析利用者様送迎、安否確認やコール対応など生活相談サービスの提供、病院付き添いなど自費サービスの提供

ケアプランセンター

・居宅介護サービス計画（ケアプラン）の作成、保険医療 / 福祉サービス事業者等と連絡調整

ヘルパーステーション

・ホームヘルパー派遣によるサービス提供
（入浴等の身体介護、掃除買い物代行等生活援助）



※ HS：ヘルパーステーション

＜資格の取得＞

2021 年　6 月：介護職員 1 名ヘルパー 2 級資格取得
2021 年 10 月：防火、防災管理者資格取得

＜人材育成＞

・学会 / 研修会参加 / 勉強会実施状況等

コロナ禍であったためリモート研修など活用し、10 月介護報酬改定の知識の習得、e－ラーニング視聴による各人の知識技能の習得、研修計画に沿った月 1 回の部署内研修

＜総括＞

ヘルパーステーションは徐々にではあるが登録者数が増え支援介入が増加した。しかしながら、職員の確保に苦戦し、目標達成とはいかなかった。また国内の新型コロナウイルス感染状況も不安定な為、徹底した感染対策に取り組んでいる。限られた人員でベストな支援を1人1人に行えるよう、業務の効率化を図りながら、職員全員で情報を共有し働きやすい職場環境の整備に努めたい。

2022 年度　目標

職員一丸で最善を、ベストを尽くす！

1. 医療・看護・介護が連携を図り、入居者様が健康に過ごせるように努める。
2. 職員が笑顔と自信をもって働く事で入居者様も笑顔で生活できる環境を提供する。

グループ本部

2021年度

1. 経営管理部

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 厳しい世界情勢にあっても、質の高い医療・介護・自費サービス提供を継続できる組織体制、財務体質の維持及び事業発展のための施策提案・実行
2. グループ内の相互理解を深め、更なる協力・連携体制を強化するための施策提案・実行
3. 「自ら考え、自ら動く」ことのできる職場環境づくりのための施策提案・実行

＜実績（取組み）＞

2021（令和 3）年度は、ユーエスケイ企画の体制見直しをベースとして、グループ全体の管理部門のさらなる効率化を目標に、業務分担・人員配置の見直しを行った。

・人員配置数

経営管理部 2 名・経営管理室 2 名・事業課 3 名

・部内業務等

2021（令和 3）年度はメディカルサービス法人である株式会社ユーエスケイ企画を含むグループ全体の管理部門として担当業務の拡大を行った。

＜人材育成＞

入職者向けの導入研修である「中途入職者研修」や管理部門職員対象の「一般職研修」を定期的に実施した。

・勉強会実施状況等

外部研修への参加が難しい状況から、e－ラーニングシステムを導入し、管理部門対象に定期的な自己学習を促す仕組みを構築した。

法人の適正運営に必要な人事・労務に関する関連法規、人事制度、組織運営、経理・財務、人材育成、教育研修プログラム、組織論・リーダーシップ等をテーマとした学びを、各自行うよう働きかけを行った。

＜総括＞

2016（平成 28）年に経営管理部が設置されて以降、腎愛会の法人本部にて人事・労務・経理・財務を中心とした管理部門の主要業務を担ってきた。

2021（令和3）年度より、業務効率と人員配置の見直しにより、メディカルサービス法人であるユーエスケイ企画も含めた腎愛会グループ全体の管理部門を統括する体制へ再編された。

それぞれの担当で課題はあるが、ここ数年の大きな課題は採用活動である。

医療職と介護職の確保は変わらず難しいが、最近は医療事務など、その他の職種の応募も少なく、確保困難な状況となっている。

コロナ禍のリモートワークを発端に、採用活動も変化をしている状況から、採用専用サイトの立ち上げやSNS の活用など、ネット上での情報発信を強化した。

その結果、自己応募の数が徐々に増えつつあり、人員不足の解消に向けて明るい材料となっている。

また、「医療・介護・自由診療」という腎愛会グループの 3 本柱で、地域に貢献すべく、2019（平成 31）年 2 月よりクリニックビューティー・コア・サポート事業において「ビューティー・コア・サポートセミナー」を年 12 回開催し、地元鹿児島の素晴らしさと、クリニック上山菜穂院長の専門である分子栄養学に基づいた健康・抗加齢についての先進的な情報発信ができた。

2020（令和 2）年度は、世の中の流れに合わせ、オンライン、SNS での発信を強化し、一定の成果を得られた。2021（令和 3）年度からは、地元宇宿商店街への貢献と、地元への情報提供を主として、地元のキッチンカーの定期的な招へいとラジオ番組（医療法人　腎愛会、ユーエスケイ企画　提供）の制作・放送を開始した。

2022 年度　目標

『最善』を考え抜き、行動する

1. 職員の皆さんとそのご家族を中心に考え、法人として当たり前のことを感謝と共に実践する。
2. グループ全体の【力】と【質】を高めるサポートに徹する。

●一般職研修

年月日	内　容	講　師	参加人数
2021.4.21-22	お金の将来設計	経営管理室　藤間	24 名
2021.6.16-17	あなたは海派？山派？	医事課　波江野	28 名
2021.7.21	水害時の対応	施設課　中川	28 名
2021.8.18	㈱ユーエスケイ企画 営業課の一日 透析用材料と注文した商品がお手元に届くまで	㈱ユーエスケイ企画 営業課　谷	27 名
2021.9.15-16	解説　人は話し方が 9 割	経営管理部　脇	37 名
2021.11.17	ビューティー・コア・サポート★の利用者調べ リラクゼーションにおけるビューティー・コア・サポート★のコンセプト	事業課　馬場 ビューティー・コア・サポート 市島	36 名
2021.12.15-16	外線応対について ～現状把握とこれからの課題～	事務部　石井	34 名
2022.1.19-20	心の筋トレ～よりよく生きるための考え方～	医事課　石窪	30 名

2. 経営管理室

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 投資の最適化及び財務体質の強化と安定
2. 医療・介護・自費サービス事業・ユーエスケイ企画事業の後方支援と連携強化
3. 高い納得度とやりがいを持てる風通しのよい職場環境の構築

＜実績（取組み）＞

2020 年度より組織再編によりグループ本部として、グループ全体の人事・給与・経理・財務を担っている。データの一元化による業務効率の向上やグループ全体の経営状況を把握できる仕組みづくりに取り組むことができた。

・人員配置数

常勤職員 1 名、短時間職員 1 名、パート職員 1 名

・業務等

① 人事・給与業務
② 経理・財務業務
③ 行事・イベントの企画運営
④ 各種研修や委員会・会議等の取りまとめ

（入職者研修）

年月日	内　容	講　師	参加人数
2021.4.8-9	新規入職者研修	各部署・委員会	5 名
2021.6.2,22	中途入職者研修	各部署・委員会	4 名
2021.8.4	中途入職者研修	各部署・委員会	6 名
2021.11.9,30	中途入職者研修	各部署・委員会	5 名

＜人材育成＞

・学会 / 研修会参加状況

コロナ禍で外部での研修の受講が難しかったが、リモート研修等を活用することで、知識の習得に取り組むことができた。

・勉強会実施状況等

事務系職員向けに年間を通して一般職研修を実施

＜総括＞

2022 年度は、職員の成長を促す当法人独自の評価方法である職員シートの運用面の改善に取り組む。

年間スケジュールの見直しやシートのバージョンアップ等、これまで手を付けられなかったことにチャレンジしたい。

また 2020 年度の組織再編に伴いグループ本部として人事・会計分野のデータを一元化することができた。このメリットを活かして蓄積されたデータを元に今後のグループ全体の経営状況を把握し、安定した経営基盤を構築できるよう努めていきたい。今後は人材確保が厳しくなることは明らかであるので、業務の質を落とさないように業務の効率化とルーティンワークのオートメーション化を図り限られた人員の中でも成果を出せるように取り組んでいきたい。

またコロナ禍ということもあり、職員向けの行事やイベントの実施が厳しい状況が続いている。今後の状況を踏まえ、職員間の親睦やモチベーション向上に繋がる企画立案を行い働きやすい職場環境整備に努めたい。

2022 年度　目標

最後まで責任を持ってやりぬく！

1. 患者様、ご利用者様が安心して治療、日々の生活を過ごせるようにグループ法人の健康経営をバックアップする。
2. 社会の動向にアンテナを張り情報をアップデートしていき、チーム力を高めるため風通しのよい職場環境を作る。

3. 事務部

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. それぞれの事業（医療・介護・自費）についての現状分析と市場ニーズの把握につとめ、明確な指標を持った上で、様々なことに取り組む。
2. 医療・介護・自費（予防医療）・ユーエスケイ企画、それぞれの特徴を活かしながら連携を強化し、プラスの相乗効果が生まれる取り組みを行う。
3. 職員の皆さんがやりがいを持って働けるように、縁の下の力持ちとして職場環境を整える。

＜実績（取組み）＞

新たに届出が要件となったデータ提出加算の算定に必要な診療録管理委員会の発足も行い運営を開始。

・人員配置数

〇事務部 4 名（内 1 名は医師事務作業補助者）
〇医事課 9 名（内 1 名は院内 SE）

・部内業務等

〇事務部

職員の入退職の手続き、理事長秘書業務、医局秘書業務、慶弔関係、外線対応、来客対応、法人内行事の運営などの庶務全般に加え、医師の事務作業補助業務　等

〇医事課

上山病院ならびに、うえやま腎クリニックの受付、診療報酬請求事務、介護報酬請求事務、診療情報の集計・統計資料作成と提出、法人内の情報システム管理　等

＜人材育成＞

・学会 / 研修会参加状況

Web 開催の研修を中心に各自必要な研修に参加

学会発表準備を進めていたが、コロナ禍で断念した。次年度の参加と発表を目指している。

・勉強会実施状況等

e－ラーニングを利用して、育成状況に合わせたプログラムに参加した。

＜総括＞

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応に追われる一年だった。事務部では、官公庁からの調査票への対応、院内での感染対策会議の事務局と決定事項の発信、外部機関からの情報収集ならびに各部署への発信、ホームページの更新などを主に担当した。

新型コロナワクチン接種の予約対応、発熱外来の受付対応も行っている。

専任の院内 SE を 1 名配置し、ネットワーク管理、電子カルテならびに院内システムのサポートおよびヘルプデスク業務を行った。

感染症対策で入院患者様への直接の面会は禁止となっていたため、オンライン面会サービスの体制も整えた。

前年度に引き続き、感染症対策により学会や研修、院内学習等を縮小、中止してきた。

2022 年度はコロナ禍 3 年目となる。感染症対策を十分に行いつつ、積極的に学ぶ機会を作り各自が成長できる環境を整えたい。

2022 年度　目標

何が『最善』かを考え、判断する

1. 様々なことにアンテナを張り、先を予測しながら行動する。
2. 常にベストな方法を模索しながら、業務の質と効率の両方を向上させる。

4. 医事課

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 診療報酬における医療行為に関する知識を高め、他部署への情報発信と密接な連携による診療へのスムーズな移行
2. 電子カルテ運用管理規程、医療情報システム安全管理ガイドラインの作成及び院内システム運用の適正化
3. 時間管理とコスト意識の向上及び業務改善の実施

＜実績（取組み）＞

医事課は、医療・介護事務チームと情報システム管理チームの２チームで編成されている。コロナ禍となった今年度は、門前での検温対応や発熱外来の受け入れ対応、年間通じての新型コロナワクチン接種予約対応（近隣医療機関の医療従事者を含め、透析・一般外来のかかりつけ患者様）で延べ 2,103 人の接種を行った。

情報システム管理においては、専任の院内 SE として１名を配置し、医療系および情報系ネットワーク管理、電子カルテならびに院内システムのサポートおよびヘルプデスク業務を行った。

感染症対策の一環として、入院患者様に対し、オンライン面会サービスの体制も整えた。

また、2022 年度から療養病棟の必須となる診療データ提出加算の算定に必要な診療録管理委員会の発足も行い運営を開始した。

・人員配置数

①医療介護事務チーム　・・・５名
②情報システム管理チーム　・・・２名
③クリニック　・・・２名

・課内業務等

①医療・介護事務チーム

診療に関する事務的業務の役割を担っている。受付・一般外来・透析外来・入院の保険請求事務、訪問リハビリテーションの介護保険事務、各種書類の手続き、健診業務、未収金管理、診療録管理に加えて、医師代行診療入力作業を兼務している。また、診療に関する集計業務・統計資料作成（病床機能報告・日本透析医会統計調査等）や施設基準等に係る手続き・実施報告も担当しており、病院経営、医療の質の向上に欠かせない情報を作成している。

2021 年　診療報酬にかかる施設基準の届出２件
*1 診療録管理体制加算
*2 データ提出加算

②情報システム管理チーム

電子カルテ運用管理や院内情報システムの管理など、安全かつ適正ならびに円滑な運用が、法人全体において行えるよう促進を図っている。

また、オンライン資格確認システム（マイナンバーカード等による受付開始）の導入準備を含め、業務のデジタル化を提案、推進している。

＜人材育成＞

・学会 / 研修会参加状況

新型コロナウイルス感染症の流行により、研修参加が難しかったため、e－ラーニングの活用を行った。

・勉強会実施状況等

レセプトの査定・返戻における情報共有のためのミーティングを月１回行った。

＜総括＞

2022 年度は診療報酬改定もあり、更なる厳しい制度改正が予想される。当院に関わる改定内容を漏れのないよう把握、まずは医事課内で情報共有し、診療報酬最適化を目指して、院内周知を行えるよう準備を整えていく。

業務改善の一環として、時間外勤務減少へ向けて、無駄・無理のないよう、部署内で月に一度ミーティングを行った。

施設基準を遵守する為の監査体制づくりをするため、診療録管理委員会を毎月開催、カルテの量的ならびに質的監査を行った。

2022 年度　目標

自ら考え、判断、行動する

1. 患者様目線での対応に心がける。
2. 診療報酬・情報管理の知識を深め、コスト意識の向上に務める。

5. 施設課

2021 年度　活動と実績

＜ 2021 年度目標＞

1. 交通ルール厳守及び優しく丁寧な運転による事故・クレーム 0 件の継続
2. 患者様及びそのご家族様に安心して貰うための綺麗で清潔な環境の維持
3. 情報共有の徹底による他部署・職員間の連携強化
4. 快適な施設環境整備、院内外の保安体制強化
5. 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）活動の徹底、及び明確な業務分担による作業効率化

＜実績（取組み）＞

1. 無事故・無違反を推進するため安全運転管理者を選任した。
2. 乗降介助研修や勉強会・ヒヤリハット報告会を開催し、送迎運転の安全性向上に努めた。
3. 車両事故・故障を事前に防ぐ為、始業前点検・日常点検・週点検・月点検を確実に実施した。
4. 他部署との連携を密に取り業務改善に繋げた。
5. これらの取り組みから、患者様に安全、安心で優しい送迎業務を今後も実践する。
6. 施設管理業務に力をいれ、建物及び設備の状態維持及び改善ができる様、日々の管理・点検を行った。清掃チームは、清掃業務の標準化を図る目標をたて、清掃業務の基本や清掃用具の取り扱いについて研修を行い、清掃技術のレベルアップに努め綺麗な病院清掃、安全な清掃作業を行った。また、施設外職員駐車場周りの美化活動や施設内外の緑化活動を施設課全体で行った。
7. 各施設に防火管理者を置き、年 2 回の防火訓練を実施した。

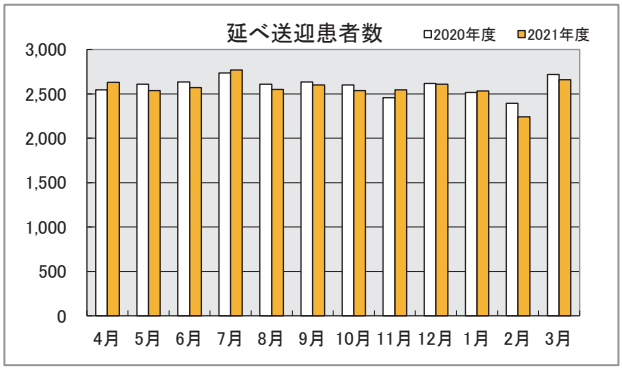
・人員配置数

運転チーム　（7 名）
清掃チーム　（7 名）
運転業務委託（6 名）　計 20 名

・課内業務等

1. 透析患者様の送迎
2. 腎愛会車両の維持・管理
3. 腎愛会グループ内建物や駐車場の維持・管理
4. 腎愛会グループ内建物の防火管理
5. 設備・機器の維持管理
6. 防犯・保安業務
7. 各施設の外回り及び内部の清掃

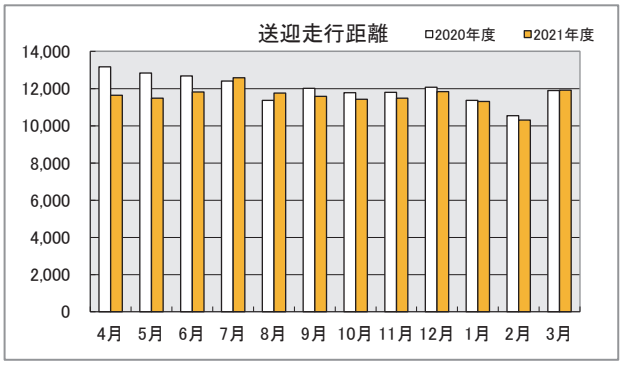
【2021 年度送迎患者数】



4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
2,628	2,539	2,571	2,768	2,550	2,599
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
2,537	2,547	2,608	2,534	2,242	2,658

合計　30,781 名（2020 年度送迎患者数省略）

【2021 年度送迎走行距離】



4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
11,631	11,476	11,821	12,582	11,762	11,574
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
11,418	11,479	11,836	11,298	10,299	11,923

合計　139,099 ㎞（2020 年度送迎走行距離数省略）

＜資格の取得＞

必要に応じて、以下の資格を取得。

・安全運転管理者　1 名
・防火防災管理者
　上山病院・うえやま腎クリニック　各1名
・特別管理産業廃棄物管理責任者　1名

＜人材育成＞

学会や研修会に参加することで、業務に関する知識を得るよう努めた。

・学会 / 研修会参加状況

コロナ禍の為に、2021 年度は学会や外部の研修等に直接出席することが出来なかったが、清掃チームでは、WEB を利用したオンライン研修を実施し、接遇や清掃に役立つ知識を学んだ。

・勉強会実施状況等

同じくコロナ禍の為に、2021 年度は勉強会等を行うことが出来なかったが、安全運転管理者講習の内容を課内にフィードバックする等した。

研修 / 報告会名	開催日
乗降介助研修	2021.3.24
ヒヤリハット報告会	毎月 1 回開催

＜総括＞

施設課は、運転チームと清掃チームで業務を行っている。

運転チームは、透析患者様の送迎を主な任務とし、鹿児島市内、吹上・伊集院方面の送迎をおこなっている。また上山病院・うえやま腎クリニック・高齢者福祉複合施設光陽・霧島山荘などの建物や駐車場の管理・防火管理・緑化、設備機器全般の維持管理として、空調機のフィルター・換気扇の清掃、消防設備機器・車いすの点検や、防犯巡回・等の業務を行った。

清掃チームは、上山病院・うえやま腎クリニック・高齢者福祉複合施設光陽施設内各フロアの床清掃・ゴミ回収・じゅうたん清掃・浴槽清掃・トイレの他、建物周りなど細部にわたり清掃業務を行った。

2022 年度　目標

安心・安全・快適な施設づくり

1. 患者様・ご利用者様に安心して、ご利用して頂ける様、常に目配り・気配り・心配りをおこない、目の前の事故を無くす。
2. 患者様・ご利用者様に、いつも綺麗で快適な環境を提供する。
3. 報連相を徹底し、情報の共有を行うことで、職員間の連携を高める。

年報
医療法人 腎愛会
2021（令和３）年度

発　行　月　　2022年12月
発　行　者　　医療法人腎愛会 グループ本部
印刷・製本　　株式会社 ユーエスケイ企画